

平成18年度 個に応じた指導を充実させるための指導方法に関する調査研究

本調査研究における「個に応じた指導」のとりえ方 中学校技術・家庭科 (家庭分野)

「確かな学力」をはぐくみ、確実なものにするためには、「個に応じた指導」の一層の充実を図るための学習指導上の工夫・改善が必要である。技術・家庭科の学習では、これまでも、個別指導やチーム・ティーチングなどによる指導形態の工夫による個に応じた指導を行ってきた。しかし、実習などの場面では生徒の学習進度に差が生じやすく、学習の遅れがちな生徒や理解が十分でない生徒に対して個別の支援を行うことが多かった。そこで、本調査研究では、個を一層伸ばすための指導の充実、特に、個の生活する力を高めるという視点で「個に応じた指導」をとらえ、生徒一人一人の興味・関心や生活経験、特性などを踏まえ、題材や教材・教具、指導方法などを工夫し、効果的な指導の在り方を探ることとした。調査協力委員の各校での必修や選択における衣食住に関する学習の授業実践をもとに、その成果について具体的に検証した。

調査研究の手だて

共通テーマ

「生徒の思いやこだわりを実現させる指導の工夫・改善」

研究を進めるにあたり、上記のような共通テーマを設定し、4つの授業実践を行った。共通テーマに迫るための手だてとして、それぞれの授業において、以下のような工夫に視点をあててアプローチした。

発展的な学習を取り入れ課題解決しながら進める指導の工夫

生活する力を伸ばすための学習指導の工夫

学びを生活に生かすことのできる指導の工夫

身近な課題を主体的にとらえ生活実践に生かす指導の工夫

成果と課題

成果

- ・生徒個々の可能性を生かして学んだことを実践し、生活する力を伸ばすことができるような題材や教材・教具の開発、効果的な指導方法などを工夫することができた。

課題

- ・各学校や生徒の実態に応じて指導時間を検討していく。

実践事例

実践事例

題材名「世界で1枚のパンツ製作」

(25時間扱い)

内容「A 生活の自立と衣食住」

(3)アイウ(6)アイ

実践事例

題材名「快適生活への道」

(9時間扱い)

内容「A 生活の自立と衣食住」

(4)アイ

実践事例

題材名「便利とは何か」

(12時間扱い)

内容「B 家族と家庭生活」

(4)アイ(6)ア

実践事例 < 検証授業 >

題材名「名人シェフを目指そう! 2」

(10時間扱い)

内容「A 生活の自立と衣食住」

(2)アイウ(5)イ

実践事例はそれぞれの頁にリンクします。

<実践事例> 第2学年
「世界で1枚のパンツ製作」

技術・家庭(家庭分野)
個に応じた手立てシート

・・・今日の授業の目標・・・

自分で作る世界で1枚のパンツをデザインしよう

使用する教材・教具

教師 ファッション誌、広告、ワークシート

生徒 なし

授業の流れ

- 1 パンツのデザインへの興味と意欲付け
- 2 デザインの考案
- 3 コース分け
- 4 デザイン決定
- 5 発表

個に応じた具体的な手立て

- 1 ファッション誌や衣服広告を見せ、興味を膨らませ、はいてみたいパンツをデザインさせる。
- 2 自分の興味・関心だけでなく、自分の縫製技術も考えて、デザインさせる。
- 3 デザインを整理し、類似する3つのコースに分かれ、課題を共有させる。
- 4 コースごとに話し合いをさせ、デザインを決定するとともに、各自が準備するもの、完成までの手順を考えさせ、一番効率よい手順を考えさせる。
- 5 コースごとによく考えられている1～2名が発表し、自分の修正の参考にさせる。

評価規準

【工夫し創造する能力】
<机間指導による観察・言葉がけ>

個性を生かしたデザインがなされ、手順や材料、所要時間や難易度まで考え、工夫している。

→デザインについて賞賛し、代表として発表させる。

○個性を生かしたデザインがなされ、製作の諸条件を考え、工夫しているが、多少不備があり、修正を必要としている。

→デザインについては賞賛する。

▼普段着用している服装から考えさせる。

▼標準のデザインで、縫い代の始末など、見えない部分へのこだわりでもよいことを伝える。

< 共通テーマ >

「生徒の思いやこだわりを実現させる指導の工夫・改善」

< 研究の視点 >

- 発展的な学習を取り入れ課題解決しながら進める指導の工夫

テーマに迫るためのねらいと手だて

世界で1枚のパンツ製作	A (1)	A (2)	A (3)	A (4)	A (5)	A (6)
第2学年 25時間扱い			アイウ			アイ

《ねらい》

家庭分野「A 生活の自立と衣食住」の「衣生活」に関しては、年齢的に関心が高くなる時期である。中学生向けの雑誌の中にも、衣服の流行を取り上げた記事は多く、個性を生かす手段の一つとして、衣服に対するこだわりは強くなっている。

反面、社会の変化に伴い、大量生産・大量消費の時代となり、衣服は購入し、飽きたら捨てるものとなった。若者向けの衣料品店や、通信販売などでも安価で販売されている。ほとんどの生徒に、衣服を自分で手作りして着用しようとする意識はない。

中学校学習指導要領において、生徒の興味・関心等に応じて選択して履修させる内容になっている「簡単な衣服の製作」では、衣服の基本的な構成を知り、縫製の知識や技術の習得を目的にしている。日頃、手作りの衣服を着用する機会が少なく、小学校では、平面的な小物の製作しか経験のない生徒たちにとって、中学校で衣服製作の内容を履修させることは、自分が着用する衣服を実際に製作することを通して、製作することの楽しさや大変さ、ありがたさを味わわせることができる大切な学習であると考ええる。

また、衣服の中でも、「パンツの製作」を取り上げたのは、製作時間に制限がある中、短時間で個性を表現するためのいろいろな工夫が取り入れやすいと考えたからである。

衣服の流行や、個性を生かすための衣服に敏感である生徒の興味・関心を製作に取り入れ、形として実現させることは、製作をより楽しく意欲的にし、完成の喜びや成就感を一層高めることができると考える。

生きていくために欠かすことのできない衣生活、そして、生徒の興味・関心の高い衣生活の裏側である製作を、着用や手入れと関連付けて学習することで、改めて衣生活を見直すことができる生徒を育てたい。そして、世界で1枚というこだわりをもたせることで、意欲的に製作に取り組ませ、完成した喜び、成就感を味わわせたい。

《具体的な手立て》

- (1) 小学校で行ってきた被服製作から発展した立体的な衣服製作であるため、生徒が、より意欲的に製作に取り組むことができるよう、自分のはいてみたいパンツをデザインさせる。そして、その思いを明確にするため、工夫する部分が

似ている生徒を同一グループにする意図的班編成を行う。そのままの班で製作に移行させ、教え合ったり、相互評価させたりしながら、物を作る喜び、完成の喜びを共有させたい。

- (2) 作りたいデザインと実現させる技術に大きな差が出ないようにするため技能アンケートを実施する。また予想されるデザインの難易度も提示し、「作りたい(思い)→作れた(実現)」につながるようようにする。
- (3) デザインが多種になり、個別指導が多くなることが予想されるため、実物見本、段階標本を数多く用意し、それを見て、課題解決できるような資料を用意する。
- (4) 指導計画の中に中学校学習指導要領、家庭分野の内容の A (6) の衣服製作に、A (3) の被服整理を関連して位置付け、日常の生活では購入、着用、手入れを繰り返しているが、実はその前に製作工程があることを理解させ、既製服を買って着用する知識や技術と、製作の知識や技術と共通するものがあることを気付かせたい。
- (5) 作品が完成したら、冷静な自己評価をさせるため、レポートを作成し、発表会を開くことで、作り上げた達成感を味わわせるとともに、家庭で生かせる喜びも共有し合い、家庭生活をより豊かにするための意欲的・実践的な態度を養いたい。



学習の流れ

日常着を選ぶ時の条件や判断材料を考える。

衣服への興味・関心

製作への思い
やこだわり

自らパンツを製作する関心をもつ。

製作材料の準備の時間を
確保するためにできるだけ
早めに決定できるように
する。

興味の高まり

デザイン決定

雑誌等を見せ、世界で1枚という
こだわりをもたせる。

購入時・製作時共に必要な採寸を行う。

購入した日常着の手入れと補修の方法を理解する。

洗濯・しみ抜き・アイロンかけ・
まつり縫い・スナップ付け

パンツ製作

思いやこだわりを形にしてい
くことでの意欲の高まり

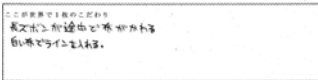
思いやこだわりの実現

基礎的な学習 一斉指導
発展的な学習 グループ指導・個別指導
実物見本や段階標本を数多く用意すること
で課題解決を図っていく。

自己評価・総合評価すること
による成就感・達成感の高まり

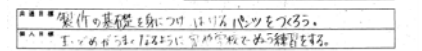
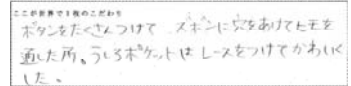
個性を生かす着用の学習と製作のまとめ
(写真撮影・レポート作成・発表会)

デザイン画作成
思いの発生



作品完成
思いの達成（成就感）

発表会・レポート作成
まとめ（成就感の高まり）



1 題材の目標

- ・ 日常の衣服に関心をもち、身体を覆う衣服の基本的な構成を知ることができる。【関心・意欲・態度】
- ・ 目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え工夫している。【工夫し創造する能力】
- ・ 衣服材料に応じた日常着の適切な手入れができる。【生活の技能】
- ・ 簡単な衣服の製作について課題をもち、計画を立てて製作できる。【生活の技能】
- ・ 自分で製作したパンツの着用を考え個性を生かす着用を工夫できる。【工夫し創造する能力】

2 題材の評価規準

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
・ 衣服の着用、選択、手入れについて感心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。 ・ 日常の衣服について感心をもち、主体的に簡単な衣服の製作に主体的に取り組み、よりよい衣生活を実践しようとしている。	・ 衣服の着用、選択、手入れについて課題を見付け、その解決を目指して工夫している。 ・ 簡単な衣服の製作について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	・ 衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的な技術を身に付けている。 ・ 簡単な衣服の製作について計画を立てて製作できる。	・ 衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的な知識を身に付けている。 ・ 衣服の基本的な構成について理解するとともに、簡単な衣服の製作に関する基礎的な知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画（25時間扱い）

時間	○ 本時のねらい ・ 主な学習活動	学習活動における具体的評価規準（評価方法）			
		関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
1 3 本 時	○ 組成表示、サイズ表示、取り扱い絵表示の意味を理解させ、衣服選択の際の留意点を理解させる。またパンツの被服製作のデザインを考えさせる。 ・ 日常着を購入するときの条件について話し合う。 ・ 日常着を購入するときの判断資料としての組成表示、サイズ表示、取り扱い絵表示について知る。 ・ 製作するパンツのデザインを考える。	着用例を見て、自分の着用を振り返ろうとしている。（ワークシート）	目的に応じた着用と、個性を融合した製作するパンツのデザインを工夫している。（観察、ワークシート）	世界で1枚のパンツの製作を意識してデザインを描くことができる。（ワークシート）	衣服の機能を理解し、説明することができる。（ペーパーテスト）
4 5	○ それぞれの箇所における適切な採寸方法を理解させる。 ・ サイズ表示の活用を体験的に理解するためと、後の製作に生かすために採寸実習する。	話し合いや採寸に積極的に参加したり、取り組んだりしている。（観察相互評価）	日常着の計画的な活用を考え、工夫したりしている。（ワークシート）	正しく採寸できる。（観察）	組成表示とサイズ表示、取り扱い絵表示の意味が理解できる。（ペーパーテスト）

6 { 8	○衣服材料に応じた日常着の手入れについて理解させる。 ・衣服材料の性質について理解する。 ・洗剤の仕組みと汚れを落とす仕組みについて知る。 ・洗濯としみ抜きの実習をする。	洗濯としみ抜きの実習に積極的に取り組もうとしている。(観察、自己評価)	自分の着用している衣服の手入れの方法を考え、課題に気付き、その解決に向けて工夫しようとしている。(ワークシート)	衣服材料や汚れの度合いに応じた手入れができる。(観察、レポート)	衣服材料の性質を理解している。洗剤と汚れの落ちる仕組みについて理解している。(ペーパーテスト)
9 { 21	○補修の目的と補修個所に応じた補修方法ができるようにさせる。 ・頻度の高い補修個所とそれぞれの個所に応じた補修方法を知る。 ○簡単な日常着の製作について課題をもち、製作計画を立てそれに沿って関心をもって製作させる。 ・衣服の構成について知る。 ・ミシンとアイロンの安全な使い方を知り、ミシン縫いの実習をする。	被服構成に関心をもち、積極的に取り組もうとしている。 製作計画に沿って意欲的に取り組もうとしている。 衣服材料に応じた日常着の補修について関心をもって学習活動に取り組もうとしている。(観察、自己評価)	製作計画や製作について課題をもち、自分なりの工夫をしようしたり、新たな方法を考えようとしたりしている。(製作表、観察)	衣服製作について計画を立て、安全で能率よく衣服を製作することができる。補修箇所や布地に適した方法で補修することができる。(観察、作品)	簡単な衣服の製作に関する基礎的な知識を身に付けている。 用具の安全な取り扱いを理解している。 立体構成による衣服の基本的な構成について理解している。(ペーパーテスト)
22 { 25	○自分で製作したパンツの目的と個性を生かした着用を工夫させる。 ・製作したパンツの試着と着用 ・レポート製作 ・発表会	意欲的に活用方法を考え、取り組もうとしている。(観察、ワークシート)	いろいろな状況を考え、数種類の着用パターンを工夫しようとしている。(観察、発表)	同じパンツで目的に応じた着用や個性を生かす活用ができる。(観察、ワークシート)	考えた着用例の目的、個性の生かし方がきちんと説明できる。(発表、ワークシート)

4 本時の学習指導（本時 3 / 25 時間）

（１）本時の目標

- ・製作するパンツのデザインを工夫し、個性を取り入れた思いのこもったデザインを工夫する。

【工夫し創造する能力】

（２）展開

学習内容	学習活動	時間	教師のはたらきかけ → はたらきかけの意図	評価と指導の工夫 【】評価の観点 評価方法 評価規準(十分満足) ○ 評価規準(おおむね満足) → 手立て ▼ 努力を要する生徒の指導と手立て
パンツのデザインへの興味と意欲付け	手立て ファッション誌や衣服広告を見せ、はいてみたいパンツをデザインさせる。 → 興味を膨らませ、意欲を高める。 様々なデザインのパンツを見ることにより、はいてみたいパンツを考える。 ・色がいい ・シルエットがきれい ・大きいポケットがかっこいい ・レースがかわいい	7	生徒が興味を示すような雑誌や広告を見せ、はいてみたいパンツを考えさせる。 数名の生徒に、気に入ったパンツを発表させる。 → 個性について意識させる。	
学習課題の設定	学習課題 製作するオンリーワンの自分だけのパンツをデザインしよう			手立て 自分の興味・関心だけでなく、自分の縫製技術も考えてデザインさせる。 → 自分で製作する意識をもたせる。イメージで終わることのないようにする。

デザイン決め	製作するパンツのデザインを考える。前時に行った技術レベル調査を踏まえ、自分のレベルに合ったデザインを考える。 デザインを決めるポイントを考える。	1 5 これから製作するパンツにその思いを組み入れ、世界で1枚の自分らしさがつまったパンツを製作させる。 → はきたいから作りたいとの意識を変容させる。 デザインを整理し、3つのコースに分かれ、課題を共有させる。 デザインによる製作難易度を示し、作りたい思いと実技レベルに差が出ないようにする。 → 課題を共有化する。 複数該当する場合、中心的なものや、補正に時間がかかるもののグループに入るよう助言する。 どんなことに配慮し、デザインを決めたらよいか考えさせ発表させる。 → 自分で製作する意識をもたせ方法、時間、難度を考える。イメージで終わることのないようにする。	【関心・意欲・態度】 机間指導による観察 製作することを前提にしたデザインのこだわりが明確である。 → 製作が前提のデザインであることを賞賛する ○ デザインへの思いが具体的に記入できている。 → 工夫については賞賛し、製作に無理のある場合については再考させる。 ▼ 毎日着用している衣服を作ることの意義を伝える。 ▼ 雑誌や広告の写真を参考にさせる。 ▼ とりあえずどこかのグループに属し、友達の意見や考えを参考にさせる。
手立て デザインを整理し、類似する3つのコースに分かれ、課題を共有させる。			
ポケットにこだわる ・ 場所 A ・ 大きさ A ・ 数 A ・ 形 A B ・ 厚み B ・ ふたポケット B ・ ファスナー B ・ 脇ポケット C - 等 付属品でこだわる ・ サイドにライン A ・ すそフリル B ・ アププリケ A ・ ペインティング A ・ 部分別布 A ~ C ・ スパンコールやビーズ A ~ C ・ 思い出の衣服を部分的に取り入れる。 A ~ C - 等 パンツの形にこだわる ・ ブーツカット A ・ スリム A ・ ワイド A ・ すそゴム A ・ すそファスナー B ・ 前ファスナー C ・ ベルト通し A - 等			

手立て コースごとに話し合いをさせ、デザインを決定するとともに、各自が準備するものや完成までの手順を考えさせ、一番効率よい手順を考えさせる。				
	デザインを決めるポイントを考える。	5	どんなことに配慮し、デザインを決めたらよいか考えさせ発表させる。 →自分で製作する意識をもたせ方法、時間、難度を考えさせる。イメージで終わることのないようにする。	【工夫し創造する能力】 机間指導による観察・言葉かけ 記入したワークシート 個性を生かしたデザインがなされ、製作の諸条件を満たしている。 →デザインについて賞賛し、代表として発表させる。 ○個性を生かしたデザインが考えられている。 →デザインについては賞賛する。 ▼普段着用している服装から考えさせる。 ▼標準のデザインで、縫い代の始末など、見えない部分へのこだわりでもよいことを伝える。
	同じような課題をもった生徒同士で話し合いながら、デザインを決定する。	15	机間指導しながら製作手順や製作方法や所要時間、難易度などをアドバイスしていく。 →作ってみたいという気持ちを壊さぬようアドバイスする。	
手立て コースごとに、よく考えられている1～2名の発表を聞き、自分の修正の参考にさせる。発表者については賞賛されることにより意欲を高め、見る側も製作に対する思いを高める。				
	発表	8	各グループから1～2名発表させる。 パンツへの一人一人のおもいを賞賛し、製作への意欲付けを図る。	

自分の技術レベルを調べてみよう

2年 組 氏名

◎ 自身あり ○ まあまあできる △ ちょっと無理

たまため・玉結びができる	
なみ縫いができる	
ミシンの上糸が設定できる	
ミシンの下糸が巻ける	
ミシンの設定ができる	
ミシンの直縫いができる（あがり縫いにずれずに縫える）	
ミシンの曲縫いが出糸上がり縫い（あがり）にずれずに縫える	
学校以外で手縫いの被服製作をしたことがある（ ）	
学校以外でミシンを使った被服製作をしたことがある（ ）	

5 成果

- (1) 画一的でなく、デザインの中に各自の思いが詰まったパンツの製作をしたため、題材の学習に対して主体的に取り組むことができた。また、自分のこだわりを実現させる満足感や成就感が得られ、次への意欲につながった。1枚の布から、自分の思いを一つずつ実現し、それぞれの違ったパンツができ上がっていく過程を楽しみながら製作していた。グループ編成も似通ったデザインごとのグループにすることにより、助け合ったり、教え合ったりする姿が多く見られた。
- (2) 事前に被服製作の技術アンケートを実施したため、技術レベルと作りたいデザインの差は、ほとんどなかった。また、技術レベルを示す際に、生徒が安易に楽なデザインに流れないようにするため、難易度の高いデザインについては、あらかじめ出来上がった作品を見せた。それにより、実物を見て、挑戦する生徒も出てよかった。
- (3) 生徒は、まず個別指導を求めてくるが、実物標本や段階標本を提示し、「これを見て考えてごらん。やってみよう。」と説明することで自己解決していく。一つ一つの製作過程について自己解決してできたものは、完成の喜びも大きかったようだ。
- (4) 家庭分野の内容のA(3)「衣服の選択と手入れ」とA(6)「簡単な衣服の製作」の項目を関連付けて指導する指導計画にしたため、生徒の意識の中に、製作→購入→着用→手入れの流れが自然と意識された。また、製作で使用する技術が衣服の手入れでも活用されることも関連付けて指導できた。



- (5) 大きなスパンで取り組む題材ということもあり、生徒が自分の製作の流れを見失なわないようにするため、常に記録を取った。レポートに完成した後の写真を添付したり、発表会を行ったりすることは、はずかしがりながらも、教師や友人から賞賛されるたび、成就感・達成感が高まっていた。また、発表会は、生徒一人一人の個性を生かした着用の学習にもつなげることができた。



6 今後の課題

- ・ 事前の技術レベル調査がデザイン決定の参考資料にはなったが、アンケート形式の記述式であったため、一人一人の実態に合った正しいレベルとの間に差が生じた。実際にミシンで縫わせたりして確認できればよいが、それを実施するためには、さらに2時間程度の計画を組み入れる必要がある。一題材25時間使っているのに、これ以上時間数を増やすのは難しい面がある。
- ・ 実物標本や段階標本があるものは自分で解決しようと取り組むが、標本がない部分でどうしてよいかわからず解決できないで困っている生徒の姿があった。今後は一人一人の生徒の実態を把握し、必要に応じて多種にわたる標本の事前準備をし、意欲的に自己解決能力を身に付けられるよう準備していきたい。
- ・ 今後も、衣生活における学習内容をより一層確かなものとし、一人一人が生活に生かすことのできるような指導方法を考え、工夫していきたい。

**<実践事例> 第2学年
「快適生活への道」**

技術・家庭(家庭分野)
個に応じた手立てシート

・・・ 今日の授業の目標 ・・・

安全で快適な住まいについて調べてみよう

使用する教材・教具

教師 ワークシート、実験レシピ、実験器具

生徒 実験のために必要な用具、材料

授 業 の 流 れ

- 1 生活に役立つ豆知識・トリビア
- 2 課題の確認
 - ・安全で快適な住まいについて調べる。
 - ・自分のランキングの課題を解決する方法を考える。
- 3 課題の追求
 - ・各グループに分かれ、実験、調査をして調べる。
- 4 課題のまとめ
 - ・ワークシートに分かったことを記入し、まとめる。
 - ・発表の準備をする。

個に応じた具体的な手立て

- 1 自分の家の状況や興味・関心に応じて、課題を選択できるように「快適な住まいのランキング」をもとに実験グループを分け、学習を進める。
- 2 各自で考えて持ってきた実験用具を使用し、調査をさせる。
- 3 自由にまとめられるようになっているワークシートを利用する。自分たちが、何を一番伝えたいのかを考えさせ、発表の準備をさせる。

評価規準

【生活の技能】

観察・ワークシート

意欲的に実習・実験・調査に取り組み、安全で快適な室内環境の整備が適切な方法でできる。

→自分の家に生かせることや、さらに調べてみたいことを考えさせ、取り組ませる。

○実習・実験・調査などを通して、安全で快適な室内環境の整備ができる。

→実験レシピの発展課題に取り組ませる。

▼実験レシピをもう一度読ませる。

▼実験方法等の資料を説明する。

< 共通テーマ >

「生徒の思いやこだわりを実現させる指導の工夫・改善」

< 研究の視点 >

○生活する力を伸ばすための学習指導の工夫

テーマに迫るためのねらいと手だて

快適生活への道	A (1)	A (2)	A (3)	A (4)	A (5)	A (6)
第 2 学年 9 時間扱い				ア イ		

《ねらい》

現代の子どもたちは、生まれたときから恵まれた住環境の中に育っている。ほとんどの生徒が、健康や安全の保障された家に住み、家の中では電化製品に囲まれ、便利で快適な生活を送っている。ボタン一つで室内が快適になることが当たり前のような生活をしてきたため、家の大切さや、住まい方についてあまり考えたことがないのが現状である。自分で工夫して住環境を整えたり、自然と調和して住んだりすることに目は向けられていないと思われる。しかし、住まい方を見るとその人が分かると言われるように、住まいは毎日の生活の場であり、心身の健康や人格形成にも大きくかかわっている。中学生になると自立に向かう成長の表れとして、自分の部屋や居場所が欲しくなり、住まいについて関心は高くなるように思われるが、家全体や家族の生活について考えることはほとんどなく、自立を促しにくいところである。

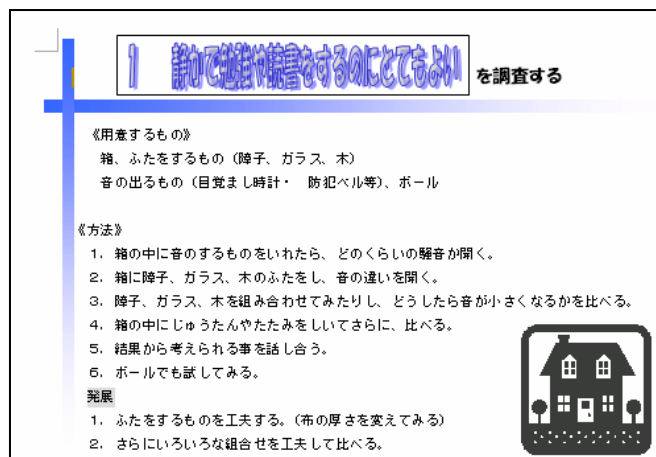
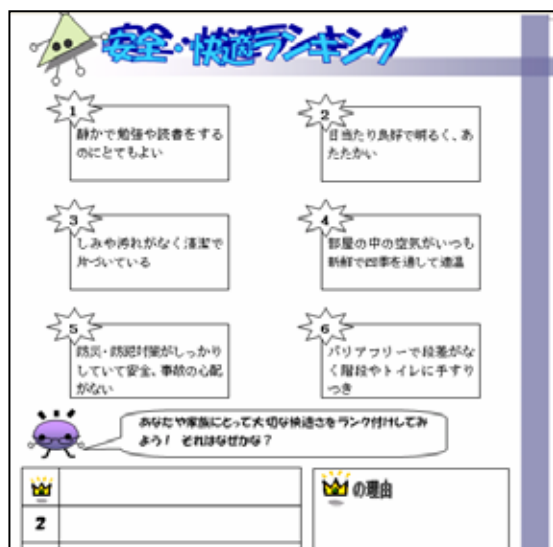
そこで、家族が住まう空間としての住居の機能を知り、安全で快適な室内環境の条件を理解するとともに、具体的な方法を考えて、よりよい住まい方の工夫ができるようにすることをねらいとしている。小学校では、整理・整頓や清掃の工夫など身の回りに関することを中心に学習してきた。中学校では小学校で学んできたことを発展させ、住生活における自立を目指したい。そのための手立てとして、各自の学習課題を、ランキング形式で設定し、テーマに応じた実習・実験・調査を行う。「なるほど」「そうだったのか」「へえ、これ使えるね」などという、生徒自身の感動や発見を生かし、生徒の思いを現実のものに近付けようようにしたい。生徒が試行錯誤しながら実習・実験・調査を工夫することで、生徒が主体的に取り組むことができるため、個に応じた指導、支援を実現できると考えている。また、実習・実験・調査した結果を発表することで自信をもたせるとともに、お互いの発表を聞き合い、快適な住まい方に関する関心を高めたい。

学習の最後には、自分たちが実習・実験・調査したことをもとに、家族や地域の人のために役立つものを製作する。これまでは、学習したことを自分のためにしか生かせていなかった生徒が、「自分でもできる」という自信だけではなく、「家族の一員として自分も役に立っている」「地域のために役に立っている」と実感できることがさらに生活する力を伸ばすことにつながると考える。自分と一緒に生活する家族や地域の人のことと考えて行動できることが真の自立であるととらえ、本題材を通してその力も付けられるようにしていきたい。

《具体的な手立て》

(1) 生徒のこだわりや課題に応じるためのワークシートの工夫

自作のプリントや個に応じた課題を学習しやすくするための資料等



(2) 生徒の課題に応じるための実習・実験・調査に必要な器具等の開発



騒音、防音について調べる実験器具

* カラーボックスに板やガラス、プラスチック、障子等でふたをする。中に布やカーペットを敷いてもよい。



日当たりについて温度、照度を調べる実験器具

* 様々なカーテン(レース、遮光、厚地、薄地、ビニール、障子等)を用意する。布だけを用意し、手をかざすだけでも十分違いが分かる。



しみや汚れの落ち方を調べる

* カーペットや床材と数種類の洗剤を用意する。いろいろな汚れを付け、汚れの落ち方や落とし方を考える。



通気や換気について調べる実験器具

* 4箇所窓が開いている。木の家でなくてもダンボール等で代用できる。



防災や防犯について調べる実験器具・資料

* キャスター付きの台を揺らして物の落ち方や耐震器具の効果を調べる。台車でも可。
* インターネットやパンフレットの資料も用意。



シニア体験セット

ジュニア体験セット

* 実際に体験をして、危険箇所や不便なところを考える。
* 簡易版で作成したり、市役所等で借りたりできる。



(3) 家庭での実践を促すための工夫

学んだことを定着させるために、家庭での実践ができるように課題を用意し、意欲をもって取り組めるようにする。

Try & Challenge

自分たちの身の回りに目を向けよう！ 家の中・学校の中・建物の中・駅・町の中などから気になったことを書きとめよう。

夢	所	所	が	と	な	た	つ

こんなところに気をつけて見て！

新しいことを見つけよう！

危険なところ、危険なモノや場所、危険な場所があったよ！

安全なところ、人に優しいところがあったよ！

暖かい場所、暖かい場所があったよ！

Class No Name

Try & Challenge 実践書

計画書

どこか	
どんな場所	
どんなふうに探検したい	

報告します！

どんなこと	
所要時間	

自分のためにやったこと 家族のためにやったこと 他人のために社会のためにやったこと

作業者から

Class No Name

(4) 学習したことを生活の中で生かす力をはぐくむための工夫

生活に必要な知識と技術を実践に習得するだけでなく、習得したことを積極的に活用し、生活をよりよくしようと工夫したり実践したりする場面を設定する。

生かして みるみる 力が つくつく

生かしてみるみる 力がつくつく カード

※今日の授業で自分の生活に生かせることを探そう

月日	技	家	※今日の授業で自分の生活に生かせることを探そう	生活する力【レベル】					ヤッタネ！
				なし	自分で	家族に	他人に	地域に	
/			(記入例)						この欄は君と先生のコミュニケーション
4/11	○		友達とお互いの材料を押さえるとうまく切れる。(材料の固定がのびきのポイント！)					○	進展無し
4/11	○		りんごの皮むきのしかたがわかった。でも、まだ自分1人ではできない。	○	4/12	4/18	4/29		ちょっとずつレベルアップ
4/18	○		切り口をきれいにしなくてはならない。(がたがたしていると接着剤が効かない！)		○		4/25		1段階かしでもいいよ
4/18	○		きゅうりのいろいろな切り方がわかった。家族のためにサラダを作ろうと思った。			○		8/10	
/									
/									
/									
/									

《学習の流れ》

1

2

住まいの機能・はたらきを知る

生徒の思い・こだわりの発生

3

住まいの安全・快適ランキングを行う

ランキングの結果をもとに、さらに調査・追及をしてみたい課題を見付ける。

生徒の思い・こだわりの追求

4

5

実験・実習・調査

静かさ

静かで勉強や読書をするのにとってもよい。

日当たり

日当たり良好で、明るく暖かい。

きれい・清潔

しみや汚れがなく清潔で片付いている。

空気・適温

部屋の中がいつも新鮮で、四季を通して適温である。

防災・防犯

防災・防犯対策がしっかりしていて安全、事故の心配がない。

バリアフリー

バリアフリーで段差がなく階段やトイレに手すりが付いている。



6

発表を聞き、お互いの情報を共有する。

共有化

7

8

家庭での実践

生活に役立つものの製作

生活する力を伸ばす。

生活する力の定着

実験・実習・調査を生かし、自分や家族、地域の人のために役立つものを製作する。

例

静かさ

2階にある兄のフローリング部屋のいすの下に敷くマット（騒音を防ぐ）



共有化

生活する力を深める。

9

1 題材の目標

- ・安全で快適な室内環境の整備と住まい方について、関心をもって学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとしている。【生活や技術への関心・意欲・態度】
- ・安全で快適な室内環境の整備と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫することができる。【生活を工夫し創造する能力】
- ・安全で快適な室内環境の整備と住まい方の工夫に関する基礎的な技術を身に付けている。【生活の技能】
- ・安全で快適な室内環境の整備と住まい方の工夫に関する基礎的な知識を身に付けている。【生活や技術についての知識・理解】

2 題材の評価規準

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
・家族の生活の場としての住居の機能について関心をもっている。 ・安全で快適な室内環境および、衛生的な室内の整備について関心を持ち、実践しようとしている。 ・住みよい住環境にするための工夫に関心をもっている。	・安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について考え、工夫している。 ・住みよい住環境にするため、自分でできることを工夫しようとしている。	・実習、実験、調査などを通して、安全で快適な室内環境の整備について調べることができる。 ・室内の空気調節 ・通風、換気 ・騒音防止 ・室内事故の防止 ・汚れに応じた清掃 ・用具や用剤を安全で適切に取り扱うことができる。 ・安全で快適な室内環境の整備について実践できる。	・住居の基本的な機能について理解している。 ・室内環境を整えることの必要性に気付いている。 ・安全で快適な室内環境の整備に関する具体的な方法を理解している。 ・地域の住環境を様々な観点から評価することができる。

3 指導と評価計画（9時間扱い）

時間	○本時のねらい ・主な学習活動	学習活動における具体的評価規準（評価方法）			
		関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
1 ・ 2	○地域の住まいの役割を知ることができる。 ・住まいについてイメージマップを作る。 ・いろいろな地域の住まいのはたらきを知る。 ・家族に必要な住空間を知る。	家族の生活の場としての住居の機能に関心を持ち考えようとしている。（ワークシート）			住居の基本的な機能について理解している。（ペーパーテスト）

3 ・ 4 本 時 ・ 5 ・ 6	- 室内環境を整える必要性を理解し、安全で快適な室内環境の整備ができる。 - 自分の課題解決へ向けて、実習・実験・調査に取り組む。 - 調べたことを発表し合う。 - 家庭で実践する計画を立てる。	安全で快適な室内環境および、衛生的な室内の整備について関心を持ち、実践しようとしている。(観察・ワークシート)	安全で快適な室内環境の整え方や住まい方について考え、工夫している。(ワークシート)	実習・実験・調査などを通して、安全で快適な室内環境の整備ができる。(観察・ワークシート)	室内環境を整えることの必要性に気付いている。(ワークシート) 安全で快適な室内環境の整備に関する具体的な方法を理解している。(ペーパーテスト)
7 ・ 8 ・ 9	- 住環境について課題をもち、解決を目指して自分なりの工夫ができる。 - 家族や地域のために役立つものを製作し、発表する。	住みよい住環境にするための工夫に関心をもっている。(発表)	安全で快適な室内環境の整え方や住環境について考え、工夫している。(ワークシート)	安全で快適な室内環境の整備について実践できる。(作品、発表)	室内環境を整えることの必要性に気付いている。(ワークシート) 地域の住環境を評価する観点が分かっている。(相互評価)

4 本時の学習指導(本時 4 / 8 時)

(1) 本時の目標

・実習・実験・調査などを通して、安全で快適な室内環境の整備ができる。

【生活の技能】

(2) 展開

学習内容	学習活動	時間	教師のはたらきかけ → はたらきかけの意図	評価と指導の工夫 【】評価の観点 評価方法 評価規準(十分満足) ○ 評価規準(おおむね満足) → 手立て ▼ 努力を要する生徒の指導の手立て
手立て 生活に密着した情報を紹介することで、自分の生活への興味・関心を高める。				
豆知識	住居に関する豆知識(トリビア)を知る。 例)「曲がったほうきの先は水につけて干すとまっすぐになる」	2	暮らしに役立つ情報を提供する。 → 生徒の興味・関心を高める。	

テーマの確認	実習・実験・調査のテーマを発表する。	3	実習・実験・調査のテーマや目的をはっきりさせる。 → 本時の課題がスムーズに行えるようにする。	
学習課題の設定	学習課題 自分のランキングの課題を解決する方法を考えよう。			
実習・実験・調査	自分の課題に沿って、実習・実験・調査を行い、分かったことをプリントに記入する。	38	用具や資料の使い方や注意点を簡単に確認する。 → 手際よく説明し、実習・実験・調査の時間を十分にとる。 → 安全面の注意を促す。	
手立て 安全で快適な住まいをより身近なものとしてとらえ、自分でも実践できるように、実習・実験・調査に取り組む。				
ランキング (安全・快適条件)		実験方法		用具・材料
静かで勉強や読書をするのにとてもよい		箱の中に音のするものを入れ、素材の違うふたをしたり、布を敷いたりして音の大きさの違いを比べる。		箱、ふたになるもの(障子・ガラス・木)、音源(目覚まし時計・防犯ベル等)
日当たり良好で明るく、あたたかい		様々な素材のカーテンにライトを当て、それぞれの温度や照度の違いを比べる。また、組み合わせても測定する。		カーテン(レース・遮光・すだれ等)、ライト、温度計、照度計
しみや汚れがなく清潔で片付いている		汚れの付いたカーペットや床材を、適した洗剤や用具、方法で汚れを落としてみる。		各種洗剤、スポンジ、たわし、ぞうきん、カーペット、床材、汚れ(しょう油・油・クレヨン等)
部屋の中の空気がいつも新鮮で四季を通して適温		住居模型の中で線香をたき、窓の開け方や換気扇の使い方と空気の流れを調べる。また、温度と空気の関係についても考える。		住居模型、線香、換気扇、ヒーター、デジタル温度計
防災・防犯対策がしっかりしていて安全、事故の心配がない		防災・防犯についてインターネットや資料から情報を集めまとめる。		パソコン、本、パンフレット等
バリアフリーで段差がなく階段やトイレに手すり付き		シニア体験セット、ジュニア体験セットを装着し学校内を歩いてみる。危険なところや不便なところを見つける。		シニア体験セット、ジュニア体験セット
		家庭 - 21 -		

次時の確認	手立て 実習・実験・調査の取組について支援し、賞賛する。			
	調査・実験・実習から分かったことをまとめる。 発表の仕方と発表の準備について話を聞く。	5	実験等をしている最中にさらに調べてみたいことや試してみたいこと、工夫できることがないか、アドバイスや助言を行う。 → 実験等が順調に進んでいるかを確認する。 余裕のある生徒には、発表ができるように、結果をまとめておくように指示する。 → 次時の発表の準備を進めておく。 実習・実験・調査の結果をふまえて、聞いている人に分かりやすく伝える工夫をしておくことを指示する。 → 工夫をし、自分たちなりの発表ができるようにする。	【生活の技能】 観察・ワークシート意欲的に実習・実験・調査に取り組み、安全で快適な室内環境の整備が適切な方法でできる。 → 自分の家に生かせることや、さらに調べてみたいことを考えさせ、取り組ませる。 ○ 実習、実験、調査などを通して、安全で快適な室内環境の整備ができる。 → 実験レシピの発展課題に取り組ませる。 ▼ 実験レシピをもう一度読ませる。 ▼ 実験方法等の資料を説明する。
みるつくカード	手立て 自分の家と結び付けて考えたり、自分の家以外に目を向けたりすることで住まいに関する関心を高める。			
	授業で学んだことから、生活に生かせることを考え記入する。	2	本時の授業を通して、生活に生かせることを考え、記入させる。	

5 成果

(1) 生徒のこだわりや課題に応じるためのワークシートの工夫

自分や自分の家族に応じた課題を考えやすいように、ランキング形式にしたワークシートを使用し、一人一人が自分の思いや考えを示しやすいようにした。6つのポイントが示されているため、住まいの安全や快適についてじっくりと考えることができ、生徒のこだわりがよく表れていた。また、実習・実験・調査の段階では、手順を示したレシピを課題ごとに配布した。課題にすぐに取りかかることができるため、試行錯誤を重ねながら実験を進める時間が十分に確保できた。また、他のワークシートも、十分に記述させるスペースを設けたり、資料を載せたりするなどの工夫をすることができた。

安全・快適ランキング

1

静かで勉強や読書をするのにとてもよい

2

日当たり良好で明るく、あたたかい

3

しみや汚れがなく清潔で片づいている

4

部屋の中の空気がいつも新鮮で四季を通して適温

5

防災・防犯対策がしっかりしていて安全、事故の心配がない

6

バリアフリーで段差がなく階段やトイレに手すりつき

あなたや家族にとって大切な快適さをランキング付けしてみよう！ それほげかな？

順位	理由
1	5
2	4
3	2
4	1
5	6

理由

家が安全で安心で暮らしやすいことが一番大切な理由です。また、快適な生活を送るためには、日当たりや清潔さ、静けさなども大切なポイントです。

何を測る？ 1冊しよう

あなたの選んだ **1冊** は何？

1. 防犯カメラの設置が義務化された

グループメンバー
お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん

測について測べる

4 空気の流れと室内温度を調査する

① 用意するもの
気流観察、線香、紙風船、ヒーター、デジタル温度計

② 方法
1. 気流観察の中で線香をたく。
2. 窓から空気を入れたり、紙風船で風を感じるなどして、風の流れをみる。
3. ヒーターで室内の温度を上げる。
4. 窓から空気を入れたり、紙風船で風を感じるなどして、温度を調べる。
5. 結果から考えられる事を話し合う。

③ 説明
1. 窓の開け方によって、風の流れの違いがでるか比べる。
2. 窓の側に家具などを置いて、風の流れを比べる。
3. 窓の上下などの温度の違いについて調べてみる。
4. 窓の開け方によって、温度の違いがでるか比べる。

実験・調査結果の手帳

空気の流しと温度を測る方法と、その結果を記録する

[illegible]

(2) 生徒の課題に応じるための実習・実験・調査に必要な器具等の開発

課題に応じた器具や用具を多く用意することで、生徒が意欲をもって取り組み、実際に経験や体験をしながら学ぶことができた。教科書や資料だけでは得ることのできない生きた知識を獲得することができた。また、それぞれの発表の場面では、グループごとに「これだけはみんなに伝えたい」ということがはっきりし、分かりやすく内容の濃いものになった。



< 騒音の実験 >

木の球を落とし、音の大きさを比べる。床を想定し、フローリングの場合やカーペット、畳の場合など様々な床材での違いを調べる。



< しみや汚れの実験 >

汚れの付いたカーペットや床材を、適した洗剤や用具、方法で汚れを落としてみる。



< 通気の実験 >

住居模型の中で線香をたき、窓の開け方や換気扇の使い方などで空気の流れを調べる。また、温度と空気の関係についても考える。



< 騒音の実験 >

箱の中に音のするものを入れ、素材の違うふたをしたり、布を敷いたりして音の大きさの違いを比べる。



< シニア・ジュニア体験 >

シニア体験セット、ジュニア体験セットを装着し学校内を歩いてみる。危険なところや不便なところを見付ける。

(3) 家庭での実践を促すための工夫

学習したことを生活の場面で生かし、実践的意欲を喚起したり、継続的な力を身に付けさせたりするために役立てた。下記(上)のプリントは、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する授業後、身の回りの危険箇所、安全箇所等を学校や家、地域から探してくるようになっている。授業を生活に結び付けて考えられるようにするために有効であり、生徒も意欲的に取り組んだ。下記(下)プリントでは、実習・

実験・調査を行い各班の発表を聞いた後、自分の家で実際に安全・快適な生活のために実践を行う。多くの生徒が授業で学んだことを生かし、生活改善をすることができた。

Try & Challenge

自分たちの身の回りにも目をむけてみよう！ 家の中・学校の中・建物の中・駅・町のなかから気付いたことを書きとめよう。

場 所	何 が	どんなだった
家の家の トイレに	手すりがある	手足が不自由なおじいちゃんが使っている。
家の家の お風呂場に	手すりが ある	手足が不自由なおじいちゃんが使っている。
礼羽小学校の 階段に	手すりが ある	足が弱い人やけがをした人が使っている。
中央図書館の 本のお部屋に	低いところと 高いところがある	重い人やお小さい人も利用できる。
中央図書館の 自動はんぱい機が イトーヨーカドー エレベーターに	低いところと 高いところがある	重い人やお小さい人も利用できる。
イトーヨーカドー エレベーターに	重い人やお小さい人も 利用できる	重い人やお小さい人も利用できる。
加須駅 きっぷ売り場に	点字がある	目の不自由な方も 利用できる
駅どおりの 道に	点字がある	目の不自由な方も 安全に歩ける。
駅どおりの 道に	音が出る 信号機がある	目の不自由な方も 音で分かる。
イトーヨーカドー トイレに	重い人やお小さい人も 利用できる	重い人やお小さい人も 利用できる。トイレが できる仕組みになっている。

「こんなところに気を付けて見て！」



新しいことみつけたよ！



危険なところ、注意しなきゃいけないところがあったよ！！



安全なところ、人に優しいところがあったよ！！



環境に優しいもの（とこと）みつけたよ！



Try & Challenge

自分たちの身の回りに目をむけてみよう！ 家の中・学校の中・建物の中・駅・町のなかから気付いたことを書きこめよう。

場 所	何 が	どんなだった
筆箱の中	シャーペン	しんを出す時上を押さなく ても出るんだけどしんが 大きくて押しやすい。 軽い力で押さる
前に住んでいた家	電気をうつるスイッチ	軽い力で押さる
バスラカゴ	スロープ	車いすの人移動できる
馬	切符売り場	点字がっている
学校	階段	手すりがついている
よその家	部屋と部屋の壁の目	段差がない
図書館	水飲み機	大きさがちがうのがある おいてある
信号機	歩行者の信号	青になると音がでる
けいたい電話	ボタン	大きくて押しやすい 操作しやすい
エレベーター	ボタン	車いすの人用の ボタンがっている



こんなところに気を付けて見よう！



危険なところ、注意しなきゃいけないところがあったよ！！



新しいことみつけたよ！



環境に優しいもの（ところ）みつけたよ！

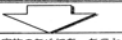


1/3



地震対策

計画書	
どこが	① パソコン、プリンター、TV、電子レンジ ② 食器の食器棚 ③ 食器の食器棚のガラス
どんな状態	① 大きな地震があったらすぐに落そう ② 大きな地震があったら倒れてしまいう ③ 大きな地震があったら割れた中の食器が出てしまいう
どのように何をどうしてどうしたい	① 下にゴムを敷いて安定させたい ② 地震用スッパを置いておきたい ③ ガラスに専用シートをはりたいう 万一危険なところは各所だ思うので、各所に重点を置いて地震対策をした。
報告します！	
どうやって	食器はハンカチで置いておいた。4Fの防災用品コーナーには、防災用品に器や保存食まで沢山あるでいた。 <u>防災用品</u> 机と机の間の間に転倒防止板をはりつけておいた。(写真あり) パソコン、プリンター、電子レンジ、TVの下に、地震用粘着シートをはりつけた。(写真あり) 食器棚の下に地震用粘着シートをはりつけた。(写真あり) 食器棚のガラスに貼る防割シートをはりつけた。 食器棚のガラスに貼る防割シートをはりつけた。 食器棚のガラスに貼る防割シートをはりつけた。
所要時間	2時間 (ガラスに貼る防割シートをはるのが難しいため)



自分のためになったこと	家族のためになったこと	他人のためや社会の役に立ったこと
マッコで地震対策をしたこと、地震の時のこまがなくなれば良いと思いたう。	各所に母が用意したグッズが役にたとう。母が安心して暮らすことができるなと思いたう。	

保護者から

地震対策は以前から考えていたが、地震対策はなかなか進まなかつた。今日は地震対策が実行して、家族で地震対策が実行したことに満足した。ありがとうございます。

写真1
パソコンのモニターを
設置用机の上に設置し、
下の扉を開けておく。
ケーブルは後で繋ぎ
ました。

写真2 →
机の下の角のところに
設置用机を設置し、
写真の様に角が
きつくとおもうように
したのでとて安定して
いました。

写真3
電源ケーブルと天板の間に
設置用机の電源ケーブルを
通す。という、作業を
行いました。一番危険を
感じていたところだったので
少し安心しました。

(4) 学習したことを生活の中で生かす力をはぐくむための工夫

- ・「生かしてみるみる力がつくつくカード」：毎時間、授業の終了時にその日に学んだことを生活の中で生かすことができないかを考え、記入する。

毎時間、学習したことを生活に結び付けて考える時間を設定した。最初は、何を書いたらいいのか悩み、生活に結び付けて考えることができない生徒が多かったが、回数を重ねるうちにそれは解消された。学習したことを実践した後にも書き加えられるため、長期間をかけて、生活する力を伸ばすのに有効であったといえる。

生かして みるみる 力が つくつく

1年3組32番 氏名

月日	校	家	※今日の授業で自分の生活に生かせることを探そう	生活する力(レベル)		ヤッター！
				なし(自分で家族に輸入した)	地域に	
4/26	○		ローマ字入力が出れるようにがんばろうと思った	○		
4/26	○		リサイクルをいっしょに心がけようと思った		○	
5/10	○		ローマ字にすいぶん慣れた。少し速く打つことができた	○		
5/10	○		ごみの分別を、これから気を付ける。	○	◎	◎
5/17	○		コンピュータの仕組みが分かった。	○		
5/17	○		分別のまわりを、リサイクルしようと思った			○
5/21	○		カードに色を付けた。カード完成までもうすぐ。	○		
5/21	○		洋服の役割が分かった。	○		
5/31	○		カード完成。今日の家族に作ってあげたい。(8/21/2004)		○	
5/31	○		今日は、集合による洋服が分かった。服装について、これから気づいていきたい。	○		

実践できたため、レベルUP!!
いいことですね!!

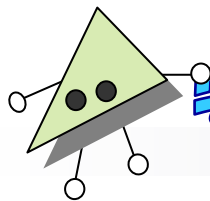
- ・「家族や地域の人のために役立つものの製作」：実習・実験・調査をもとに生活に役立つものを考え製作し、実際にプレゼントする。

学習したことを生かしたものづくりのため、自分たちの得た結果に自信をもち、意欲的に製作に取り組んだ。また、自分ではなく、誰かのためにプレゼントするという意識があったため、その人のことを思い浮かべ気に入ってもらえるように工夫しながら、心を込めて製作していた。実際に、作品を手渡したり、使ってもらっている様子が分かると、どの生徒もうれしそうな表情を見せ、自分のしたことに満足感を得ることができた。



6 今後の課題

- ・今回の計画では、実習・実験・調査の時間を、計画を含めて 2 時間に設定したが、もう少し時間を取り、実験等で得た結果を調べ学習などで補う時間が必要であった。そうすれば、正しい知識の獲得と理解の深まりが得られると考える。
- ・実習・実験・調査で分かったことを発表という形で情報交換をしたが、全員に確実に結果を伝えるための方法をさらに工夫する必要がある。
- ・実験器具に付随する用具の精選を行う必要がある。
- ・家族や地域の人のことを考えた生活ができる計画であったが、「住生活」の分野だけでなく、「衣生活」「食生活」においても同様に研究を重ねていく必要がある。
- ・地域の人々に学校に来ていただけない場合もあるため、家族や地域の人々の声を生徒にまで伝える工夫をする必要がある。



安全・快適ランキング

1

静かで勉強や読書をする
のにとてもよい

2

日当たり良好で明るく、あ
たたかい

3

しみや汚れがなく清潔で
片づいている

4

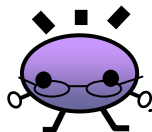
部屋の中の空気がいつも
新鮮で四季を通して適温

5

防災・防犯対策がしっかり
していて安全、事故の心配
がない

6

バリアフリーで段差がな
く階段やトイレに手すり
つき



あなたや家族にとって大切な快適さをランク付けしてみよう！ それはなぜかな？



2

3

4

5

6



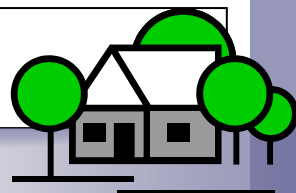
の理由

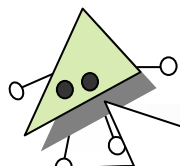


Class

No

Name



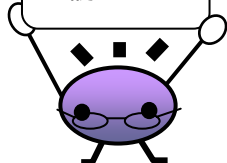


何について調べる? 計画しよう

あなたの選んだ は何?

グループメンバー

何について
調べる



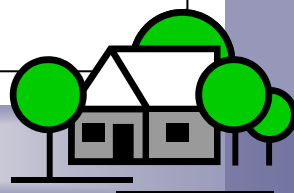
実験・調査
結果の予想

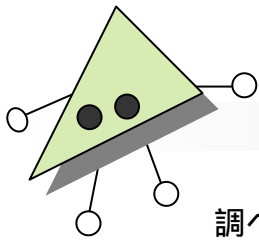


Class

No

Name



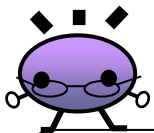


まとめよう!

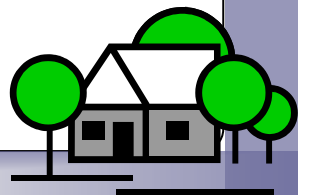
実験結果

調べたことからわかったことや考えたこと、思ったこと、生活の中で生かせることなどをまとめよう!

- ・考えたこと、思ったこと
- ・さらに調べたいと思ったこと
- ・結果メモ 等かきとめておこう!



これだけはみんなに伝えたい!!



Class

No

Name

1 静かで勉強や読書するのにとてもよい

を調査する

《用意するもの》

箱、ふたをするもの（障子、ガラス、木）

音の出るもの（目覚まし時計・防犯ベル等）、ボール

《方法》

- 1．箱の中に音のするものをいれたら、どのくらいの騒音が聞く。
- 2．箱に障子、ガラス、木のふたをし、音の違いを聞く。
- 3．障子、ガラス、木を組み合わせてみたりし、どうしたら音が小さくなるかを比べる。
- 4．箱の中にじゅうたんやたたみをしいてさらに、比べる。
- 5．結果から考えられる事を話し合う。
- 6．ボールでも試してみる。

発展

- 1．ふたをするものを工夫する。（布の厚さを変えてみる）
- 2．さらにいろいろな組合せを工夫して比べる。



2 日当たり良好

を調査する

《用意するもの》

カーテンセット、ライト、温度計、照度計

《方法》

- 1．カーテンを各種変え、ライトを日に見立て明るさ、暖かさを比べる。
- 2．それぞれの温度や照度を記録する。
- 3．結果からわかったことを話し合う。

発展

- 1．カーテンを組み合わせ比べてみる。
- 2．風を送って温度を比べてみる。



3 しみや汚れがなく清潔

を調査する

《用意するもの》

洗剤セット、スポンジ、たわし、ぞうきん、
カーペット、床材、汚れ（しょう油・墨・油・クレヨン）

《方法》

- 1．各種の汚れにあった洗剤・用具を選ぶ。
- 2．洗剤の用途や使用法に注意し、実践する。
- 3．結果から考えられる事を話し合う。

発展

- 1．その他の汚れ（手あか・ほこり・こげなど）についても考えてみる。
- 2．洗剤について調べてみる。



4 空気の流れと室内温度

を調査する

《用意するもの》

住居模型、線香、換気扇、ヒーター、デジタル温度計

《方法》

- 1．住居模型の中で線香をたく。
- 2．窓から空気を入れたり、換気扇を使うなどして、煙の流れをみる。
- 3．ヒーターで室内の温度を上げる。
- 4．窓から空気を入れたり、換気扇を使うなどして、温度を測る。
- 5．結果から考えられる事を話し合う。

発展

- 1．窓の開け方によって、煙の流れに違いがでるか比べる。
- 2．窓の前に家具などを置いて、煙の流れを比べる。
- 3．部屋の上と下での温度の違いについて調べてみる。
- 4．窓の開け方によって、温度の違いがでるか比べる。



5 防災・防犯

を調査する

《用意するもの》

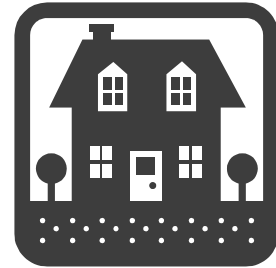
パソコン、本、パンフレット等

《方法》

1. 防災・防犯について調べる。
防災・・・火事、地震、雪、雷、台風、洪水など
防犯・・・空き巣、防犯対策など
2. 結果から考えられる事を話し合う。

発展

1. 実際に自分でできることを体験してみる。
2. 身近な人にインタビューしてみる。



6 バリアフリー

を調査する

《用意するもの》

シニア体験セット 〔ゴーグル、手袋、耳栓、おもり〕

ジュニア体験セット 〔ジュニアビジョン〕

《方法》

1. 体験セットを装着する。
2. 学校内を歩いてみる。
階段の上り下り、トイレ、電気をつける、電話をかける
3. 結果から考えられる事を話し合う。

発展

1. 教科書の文字を読んで、書き写す。
2. 会話を聴き取る。
3. 針に糸を通す。
4. 家庭内の事故について調べる。



＜実践事例③＞ 第2学年
「便利とは何か」

技術・家庭(家庭分野)
個に応じた手立てシート

●●● 今日の授業の目標 ●●●

自分で創ったまちの新名物を販売してみよう

使用する教材・教具

教師 ワークシート、広告の見本、マジック、実物提示装置
生徒 作品、ポスター・広告の資料、マジック、色鉛筆

授業の流れ

- 1 消費生活における課題の把握
- 2 まちの新名物の商品化と販売促進用のポスター作成
- 3 ポスターのプレゼンテーションと、環境に配慮した消費行動についての理解の深化
- 4 消費者として他者の商品を購入する販売シミュレーション

個に応じた具体的な手立て

- 1 広告を見て、消費者に必要な情報について関心をもつ。

小グループでプロジェクトを組み、お互いの意見交換から消費者としての立場を考慮した情報の提供を考えさせる。

- ・消費生活の課題を洗い出し、消費者として求めるものは何かを確認させる。
- ・各グループでプロジェクトを組み、グループの中で消費者への配慮と環境への配慮を考えながら検討し、商品販売するために必要な条件の整備を行わせる。

- 2 消費者の立場で購入を考えさせ、よいもの、必要なものを理解させる。

個々に購入したい物と考えさせることによって、自分の消費行動の在り方を再確認し、消費者としての意識を高める。

- ・消費者としてポスターの内容検討する活動を通して利便性と環境への配慮、経済効率の関係を考えさせながら、購入したいものを選択させる。

評価規準

【生活の技能、知識・理解】

〈ワークシート・机間指導〉

◎消費者のニーズが確認でき、情報の入手や消費者の権利について理解できている。

○消費者に必要な情報を把握できる。

→自分が必要な情報を得る手段を考えさせる。

▼情報交換させることにより、消費者に必要な情報をリサーチさせる。

【生活の技能】

〈ワークシート・教師による観察〉

◎持続可能な社会のためにできることや消費行動が社会に与える影響を理解した商品の選択になっている。

○より適切な消費行動について理解し、環境に配慮した消費行動ができる。

→ポスターの内容が消費者や環境に配慮できているかを考えさせる。

▼環境への配慮や経済のバランスを考えるように助言する。

＜共通テーマ＞

「生徒の思いやこだわりを実現させる指導の工夫・改善」

＜研究の視点＞

○学びを生活に生かすことのできる指導の工夫

テーマに迫るためのねらいと手立て

便利とは何か	B(1)	B(2)	B(3)	B(4)	B(5)	B(6)
第2学年（12時間扱い）				アイ		アイ

《ねらい》

家庭生活は社会と密接な関係をもっており、経済活動及び地域活動を除いて考えることは難しい。中学生は社会へのあこがれを抱く気持ちが強く表れ、限定された地域での活動からより広い社会生活への移行期ともいえる。よりよい地域環境について考えることは家庭生活を営み、社会の一員として自覚をもって生活できる能力をはぐくむことにもつながる。しかし、概して、家庭分野の学習は多分に個人の質を問う部分が含まれる。単に一般論的な知識や技術を身に付けただけでははぐくみきれないものであると同時に、個人的な問題に直面している。特に、学習指導要領の内容Bの(4)「家庭生活と消費」と(6)「家庭生活と地域」に関しては個々の生活によって異なる部分が多く、それぞれの立場で捉えることが必要になってくる。そこで、生徒が体験的な学習や問題解決的な学習を行う中で、主体性をはぐくむことが重要である。そこで、ここでは具体的・実践的な課題として「まちづくり」のワークショップを中心に学習を展開した。ワークショップは、参加、体験型の学習であり、相互作用の中から学びや創造を行うことができる。そのため、お互いに情報交換を繰り返し、検討を重ねていく中で学びが深まり、個に応じた学習活動になり、学んだことがより深く個に浸透すると考える。その課題解決のための支援をきめ細かく行うことは、自ずと個に応じた指導になる。自ら学び取ったものは、知識を知恵として活用し、生活に生かすことができ、技術・家庭科の目標である「生活を工夫し創造する能力と実践的な態度」につながると考える。

《具体的な手立て》

(1) 自分の生活を見つめる課程の重視

自分の生活を振り返り、地域生活と家庭生活の関係を改めて見つめ直す。本題材では「理想のまちの姿」を考え、その中から生活の課題と自分の生活に対する思いを再確認する。地域を意識させることで、個人生活の段階に留まらず社会生活を考えた課題になる。また、直接自分の生活につながる意識がもてることから、個々の思いやこだわりを生かしていくことができる。

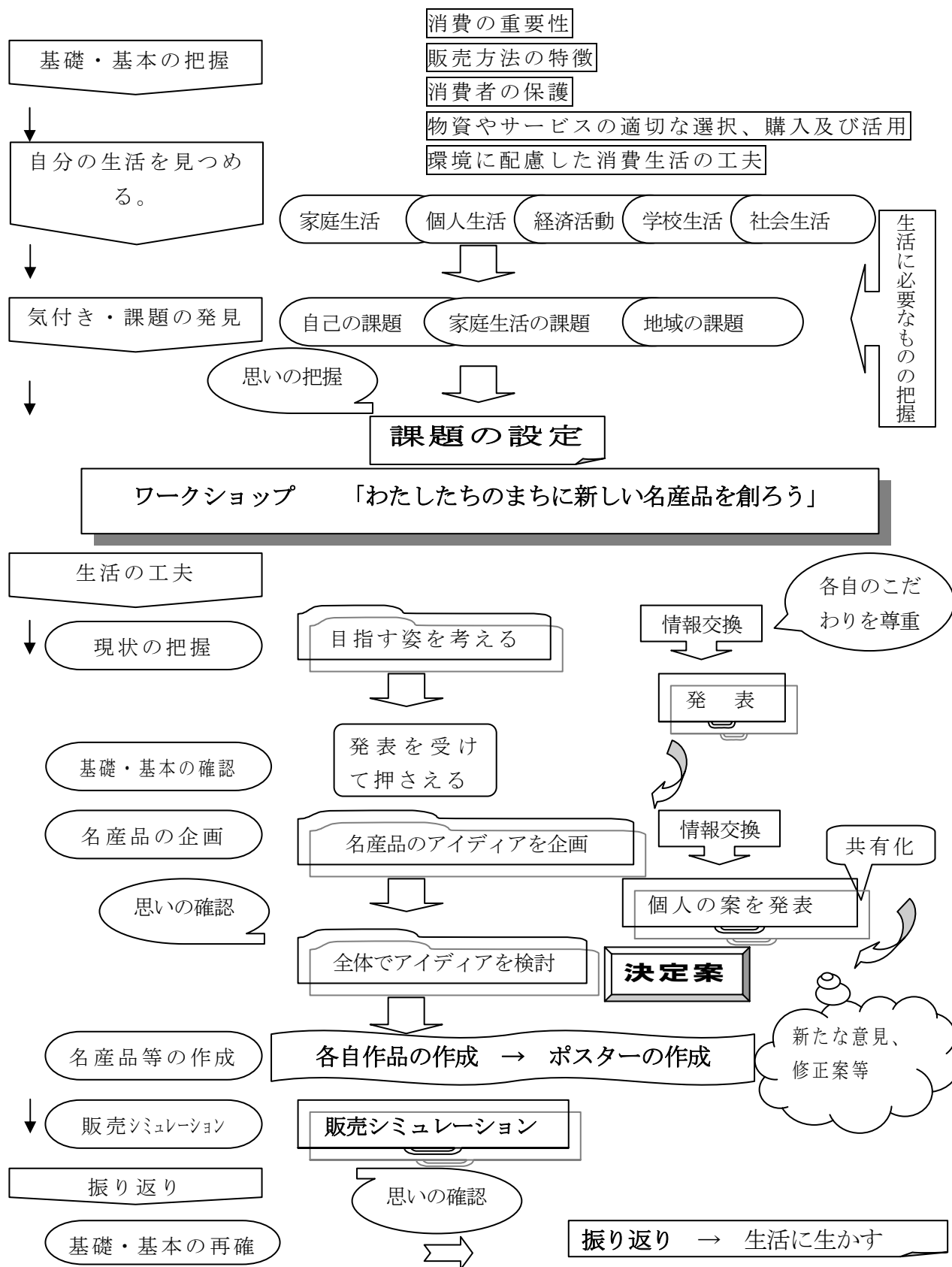
(2) 少人数のグループ化と密接な情報交換

話し合い活動の場合、とにかく受け身になりやすいが、少人数に絞ることで、自分自身が意見を述べていかななくてはならない状態を作る。話し合いでは、自分の考えに執着しがちだが、発表では自分たちの考えを分かりやすくまとめることが必要になり、社会の中で生かせる学習となる。

(3) 精選した基礎・基本の内容

精選した内容が、個々の生徒に定着できるよう、自分たちの課題をとらえさせた上で学習内容として組み込んでいく。その基礎的・基本的事項が定着するための活動を伴った課題を体験として取り入れていくことで、能力を確実に身に付けさせる。

《学習の流れ》



1 題材の目標

- ・消費者保護について知り、より適切な消費行動について考え、消費者としての自覚をもつ。【生活や技術への関心・意欲・態度】
- ・消費が社会に与える影響を考えた行動を工夫し、便利な生活と環境に配慮した消費について考え、地域生活の中で実践できる。【生活を工夫し創造する能力】
- ・家庭経済の仕組みや販売方法について理解し、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。【生活の技能】
- ・家庭生活における消費の重要性に気付き、消費活動の課題から家庭を中心とした経済の仕組みを理解する。【生活や技術についての知識・理解】

2 題材の評価規準

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
・家庭生活と消費について関心をもっている。 ・消費生活をよりよく営もうとしている。 ・より適切な消費行動を行う意欲がある。 ・地域の生活や環境に関心をもっている。	・消費生活の課題について、解決のための工夫ができる。 ・消費が社会に与える影響を考えた行動が工夫できる。 ・地域の生活や環境に関する課題を見だし、解決のための工夫ができる。	・適切な消費行動の技能を身に付けている。 ・持続可能な社会のために、消費者としてできることが考えられる。 ・地域の一員として、主体的な活動ができる。	・家庭生活と消費についてその関係を理解できる。 ・環境への配慮とはどのようなことかを理解できる。 ・消費者として基礎的な知識を身に付けている。 ・生活と環境のかかわりについて基礎的な知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画（12時間扱い）

時間	○本時のねらい ・主な学習活動	学習活動における具体的評価規準（評価方法）			
		関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
1 . 2 . 3	○生活に必要なものを把握する。 ・具体的な課題を通して家庭経済の仕組みと販売方法について理解する。 ・実際の消費活動の課題から家庭を中心とした経済の仕組みや問題点を知る。	○家庭生活と消費について関心をもっている。 (ワークシート、実習、観察)	○消費生活の課題について、解決のための工夫ができる。 (ワークシート、実習、観察)	○適切な消費行動について実践することができる。 (ペーパーテスト、実習、観察)	○生活と消費について、関係を理解できる。 (ワークシート、ペーパーテスト、実習)
4 ～ 8 ⑨ 本時 10	○環境に配慮をした消費活動を考え、工夫した行動を計画する。 ・地域の特産物作りから販売までのシミュレーションを通して、消費行動が社会に与える影響を理解し、消費者としての自覚	○作品に意欲的に取り組もうとしている。 (ワークシート、実習、観察)	○作品や販売を工夫して計画することができる。 (ワークシート、実習、観察)	○作品をしっかり作ることができる。 (ワークシート、実習、観察)	○効率のよい製作の仕方が分かる。 (ワークシート、実習、ペーパーテスト、観察)

	をもった生活を考える。				
11	○より適切な消費行動について考え消費者としての自覚をもつ。 ・便利な生活と環境に配慮した消費について考える。	○より適切な消費行動を行う意欲がある。 (ワークシート、ペーパーテスト、実習、観察)	○消費が社会に与える影響を考えることができる。 (ワークシート、実習、観察)	○消費者として環境に配慮した行動がとれる。 (ワークシート、実習、観察)	○環境への配慮や消費者として基礎的な知識を身に付けている。 (ワークシート、ペーパーテスト)
12	○人間が創る環境について理解を深め、よりよい社会環境を創るのは、人であることに気付かせる。 ・地域生活をよりよくするためにできることを考え、実践のための計画を立てる。	○地域の人の生活や環境に関心をもち、主体的に働きかけようとする意欲がある。 (ワークシート、観察)	○地域の人の生活や環境に関する課題を見出し、主体的に解決する働きかけの工夫ができる。 (ワークシート、観察)	○地域の一人員として、地域の人々や環境とのかかわり、主体的な活動ができる。 (ワークシート、観察)	○地域生活や環境を理解し、生活や環境とのかかわりについて基礎的な知識を身に付けている。 (ペーパーテスト)

4 本時の学習指導 (本時 9 / 12)

(1) 本時の目標

- ・消費者にとって必要な情報を把握し、生活に生かすことができる。【生活の技能】
- ・より適切な消費行動について理解し、環境に配慮した消費行動を考えることができる。

【生活や技術についての知識・理解】

(2) 展開

学習内容	学習活動	時間	教師のはたらきかけ →はたらきかけの意図	評価と指導の工夫 【 】評価の観点 〈 〉評価の方法 ◎評価規準 (十分満足) ○評価規準 (おおむね満足) →手立て ▼努力を要する生徒の指導の手立て
◇消費生活の課題の確認	◇事前に学習した消費生活における課題と消費者のニーズを確認する。	3	◇広告を見て、消費生活の課題を再確認し、消費者として求めるものは何かを考えさせる。 →消費者に必要な情報について関心をもた	

◇課題の把握	◇本時の学習課題を把握する	1	せる。 ◇消費者としての立場を考えて課題に取り組むことを確認させる。	
	学習課題 わたしが創ったまちの新名物を販売しよう			
◇販売促進のためのポスターの作成	◇衣服の管理に関する技能を生かして創った「まちの新名物を商品化」という設定で、販売促進用のポスターを作成する。	25	◇各グループでプロジェクトを組み、グループの中で消費者への配慮と環境への配慮を考えながら検討し、商品を販売するために必要な条件の整備を行わせる。	【生活の技能、知識・理解】 〈ワークシート・机間指導〉 ◎消費者のニーズが確認でき、情報の入手や消費者の権利について理解できている。 ○消費者に必要な情報を把握できる。 →自分が必要な情報を得る手段を考えさせる。 ▼情報交換させることにより、消費者に必要な情報をリサーチさせる。
	手立て① 小グループでプロジェクトを組み、お互いの意見交換から消費者としての立場を考慮した情報の提供を考えさせる。			
◇発表	◇ポスターのプレゼンテーションを行い、購入したいものを考え、環境に配慮した消費行動について理解を深める。	15	◇ポスターの内容を検討する活動を通して、利便性と環境への配慮、経済効率の関係を考えさせながら、購入したいものを選択させる。 →消費者としての意識の確認	【生活の技能】 〈ワークシート・観察〉 ◎持続可能な社会のためにできることや消費行動が社会に与える影響を理解した商品の選択になっている。 ○より適切な消費行動について理解し、環境に配慮した消費行動ができる。 →ポスターの内容が消費者や環境に配慮できているかを考えさせる。 ▼環境への配慮や経済のバランスを考えるよう助言する。

手立て② 個々に購入したいものを考えさせることによって、自分の消費行動の在り方を再確認し、消費者としての意識を高める。				
◇購入したいものの選択	◇ポスターを見て購入したいものを選択し、ワークシートに記入する。	5	◇消費者としての意識を高め、自分の生活を再度見つめ直す機会をもたせる。 →個の生活への対応	
◇次時の学習	◇実際の作品を見て、消費者として他者の商品を購入する販売シミュレーションを行うことを確認する。	1		

《備考》

具体的なワーク

個々で開発した名産品を試作する。それぞれが、まちのアンテナショップで販売する計画を立て作品のプレゼンテーションをする。

〔具体的な学習方法と個に応じた手立て〕

本題材では、以下の4点を「個に応じた指導」と捉えて学習題材を設定し、指導を進めていくことを考えた。

＜本指導における個に応じた指導の基本的な考え方＞

- 1 学習に対する意欲を喚起する段階で、個々の生徒の思いに沿った学習になるよう支援する。
- 2 「理解させること」「技能の習得をさせること」などの指導において、個の能力に応じた手立てを講じる。
- 3 それぞれが、自助的な能力として自分の生活に活用していくことができる学びとなるよう、個々の実情に応じた指導を行う。
- 4 社会の中で自立した生活を営める能力を、個々が身に付けていける学習であること。

○全員が必ず学習しなくてはいけないもの〔作品作り、インフォメーション〕

基礎的な技能習得学習 … 作品作りのために必要な基礎的な技能を知る。

基礎的な技能を使って体験してみる … 練習布を利用して基礎縫いを行う。

○必要に応じて各人が学習に役立てるもの〔作品作りアドバイスカウンター〕

作品作りで分からないことや、アドバイスが欲しいときに教師が相談に乗れるコーナーを設ける。【見落としがちな、内向しているつまづきを解消する手立て】

〔作品作り基礎コーナー〕

作品作りに必要な基礎的な知識や技能を提示しておく情報コーナーを設ける。

【聞くほどではなく、自分の力で解決していくことができるような問題点を解決することができる手立て】

〔作品のプレゼンテーションをするためのガイダンス〕

ガイダンスでは値段を付け、地域の特徴を強調できる。

○プレゼンテーション後「まちづくり」の一環として取り入れ、発表資料に掲載する。

《資料》

Come on join us まちづくり

年 組 番 氏名 ()

まちの名称
名称の意味
まちの目指す姿 (こんなまちにしたい、理想のまちの姿)

地域の現状を把握
するためのシート
調査用紙として
使用する。

年 組 番 氏名 ()

まちにしたい、理想のまちの姿	まちの現状
----------------	-------

地域の新名

商品の名称

商品の特長 (名称として)

地域にふさわしい新名を提案した

商品の写真 (小定額)



地域の新名物開発

商品の名称

商品の特長 (名称として)

地域にふさわしい新名を提案した

商品の写真 (小定額)



創ったものを、写真に撮影し、掲示
する。
→ 意欲の向上にもなり、社会へ発
信する意識をもつことができる。

地域の新名物を創ろう

① 地域の特産をあげてみよう。

地産地消を考慮
した活動になる
よう支援する。

○
○
○
○

② 地域で作られている物（材料や作り方を紹介）を考えてみよう。

材料名等	材料の特長

○
○
○
○

地産地消を考慮
した活動になる
よう支援する。

[illegible]

プレゼンテーションを聞いて選んだ作品を製作する。

自己評価カード

新製品作成の日誌

学習に関する自己評価をします。	
A	Ⅰ 進分できた Ⅱ 進んできた
①	地域の食料としての特長が、食料資源と関連したことを
②	地域の材料や産品を食料としたものになりましたか。 食料とした材料や産品を
③	食料に配慮した作風になりましたか。
④	消費者や生産のことを考えた作品になりましたか。
⑤	計画と準備をきちんとやりましたか。
⑥	安全や衛生に配慮し、協力して製作より作業をしましたか。
⑦	できばえや仕上げはきれいにできましたか。
⑧	時間内にかたづけをきちんと行いましたか。
⑨	材料・道具の準備、使い方をたずねれば正しく使えましたか。
⑩	材料の性質や使い方を理解して使用しましたか。
⑪	目標は達成できましたか。
⑫	食料を今後の学習活動に活用していただけますか。

学習の反省と感想を書きしょう。

作品の材料に留まりがちな意識を、輸送やその他の部分にも向けさせる。

自己を振り返らせ、学びを

より活発にする

作品の材料に留まりがちな意識を、輸送やその他の部分にも向けさせる。



作品とポスターを作
ってシミュレーショ
ンを行う。



自己を振り返らせ、学びを
より浸透させる。

客観的にとらえさせる。
 作ることのみに向いてしまいがちな意識
 を消費者としての立場に向けさせる。

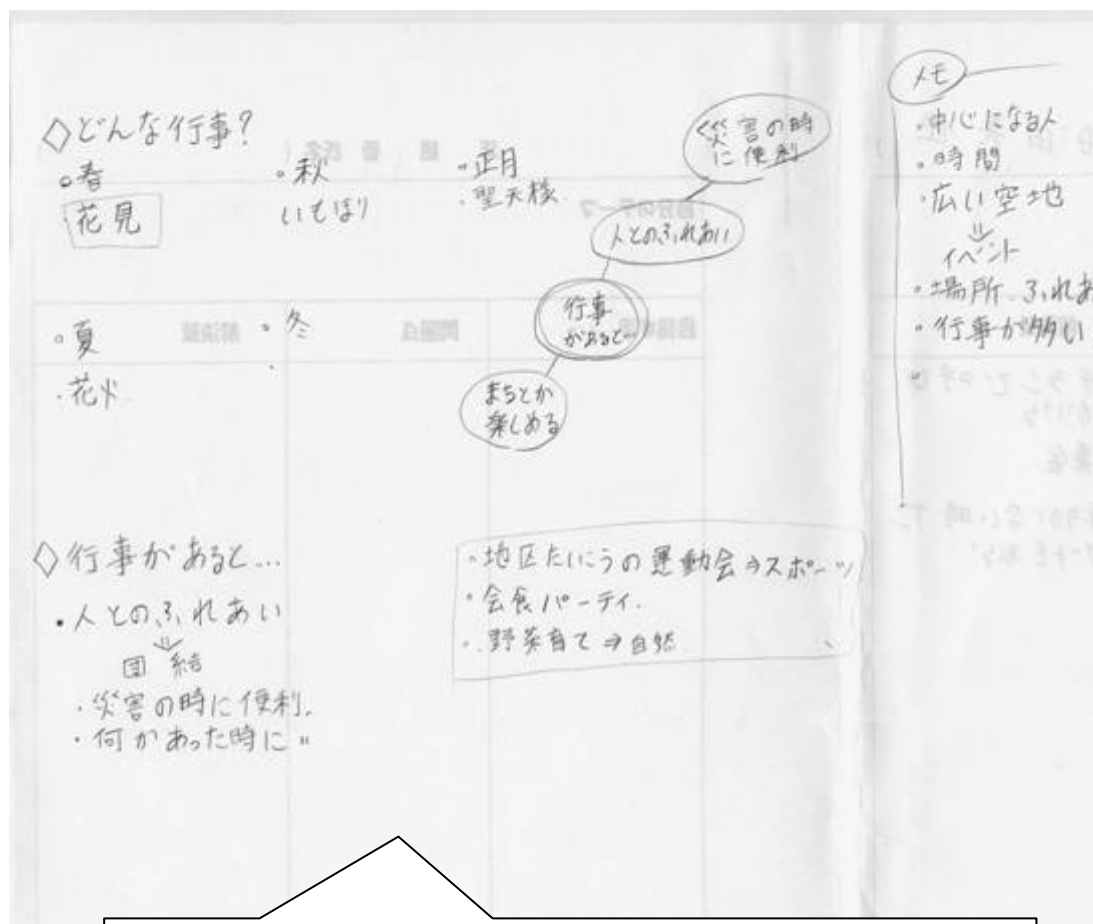
5 成果

(1) 気付きの場面の増大

それぞれの生徒の意識を高めるためには、現状を把握することが重要になると考えるが、その気付きの場面を多くもつことができる。これまで他人任せになっていた生徒も、考えていかななくては次の計画に進めないことから、自分の課題を見付けようとする様子が見られる。

生活を見つめる課程を重視することでそれぞれが、自分の意見を出し合う活動が多くなり、自分たちの考えを出しやすい環境となった。また、ワークシートの利用により、自分の言葉で語らなくてはならない場面が増えたと考えられる。課題の中で、生活の問題点を発見する場面が多くなり、これまで気付かなかった部分にも意識が向くようになった。社会生活の問題点は単純には解決に結び付かないため、工夫して生活することや、考えて創造することが大切になることにも気付いた生徒が多い。

＜生徒が記入したプリントの様子＞↓



プリントの枠内では、自分の思いが表現しきれなくなり、裏面に記入している生徒も見られた。

(2) 個々の生徒が発言したり、活動したりできる。

少人数のグループ内でテーマをもって活動することによって、日頃の学習では発言が必ずしも活発ではない生徒も、自分の課題をもつことで意見を出そうことができるようになり、個の意欲や理解の浸透につながっていた。

また、作品を作りそれぞれが具体的に考える材料をもっている形になるため、より実生活に近い考えができた。さらに、他者からの意見を聞くこともでき、個々が将来の自分の生活にも結び付いていく活動を意識することができたようである。



それぞれの意見を出し合って、より自分たちの理想のものへ近づけている生徒たち



他の人の作品や意見を見て、自分の考えを深める生徒たち

(3) 地域の課題を意識することができる。

個々の生徒が、これまで漠然と捉えてきた自分の居住する地域（大まかには学校区）について、「自分の地域」として意識することができるようになった。自分の地域の経済の活性化が、地域生活の活性化につながる意識をもつとともに、自らの消費者としての行動を振り返ることにもつながっている生徒が多く見られるようになった。しかし、地域がクローズアップされてしまうあまり、家庭の消費活動に直接的に結びつけて考えられる生徒が少なく、学習の中で、さらに検討が必要な部分である。



地域の地図に自分たちの活動を記入したもの



消費生活や環境の学習と話し合いをもとに、それぞれのポスターを作成する生徒たち



個々のこだわりをもって郷土の活性化に役立つ作品を作る生徒たち

6 今後の課題

- ・本指導計画は、できれば社会科や総合的な学習の時間との横断的な学習活動ができることが望ましいと考える。
- ・技術分野のものづくりの視点や材料の知識などを総合的に取り入れて考えさせることがより充実した学習活動になると考えられるが、実際にはそのためにそれ相応の教師側の準備が必要となる。
- ・どのような場面でも実現可能な展開であるかという面から考えた場合、他の題材との関係から時間的な問題が生じる。
- ・基礎・基本を押さえた下地が無いところでは「ただ売ればいい」とか「消費者に受ければいい」といった考えや、「環境に配慮さえすればいい」といった偏った考え方に陥ることも危惧される。
- ・家庭分野の既習事項を活用した展開や基本を押さえた上での応用の時間に設定できるとよい。
- ・実習を行うことにより、生徒一人一人が、それぞれに考えたことを行うことができるが、食品加工のようなものの方が考えやすく、意欲にもつながるようだ。
- ・押さえるべき基礎・基本がおろそかにならないようにするために、事後の学習でのまとめが重要になってくると考える。
- ・消費者教育は今後生活を学習していく中で切り離せないものであるが、日々変化していく社会や個人生活に沿った学習でなくては意味が薄れてしまいがちである。
- ・単に法律や経済の仕組みや家庭経済を表面的に扱ったのでは本質的な心の教育にはならないと考えられる。
- ・個に応じて学習指導を行うために、個人の生活を題材にとるとプライバシーの問題があり、難しい場面も考えられる。
- ・「これからの生活」を題材にできることから、上記の基礎・基本をしっかりと押さえられることに配慮した上で行うと、有効な題材になると考える。

<実践事例> 第3学年
「名人シェフを目指そう! 2」
技術・家庭(家庭分野)
個に応じた手立てシート

<検証授業>

平成18年11月9日(木)

第5校時 13:40~14:30(50分)

・・・今日の授業の目標・・・

速攻! こだわりの一品を作ってみよう

使用する教材・教具

教師 食材(野菜・調味料)・ワークシート・資料図書 コンピュータ

切り方見本・デジカメ・調理道具

生徒 エプロン・切り方検定表

授業の流れ

- 1 状況設定
実生活の一場面を想起する
- 2 学習課題の設定
「今ある材料を工夫し、こだわりの一品を作ってみよう」
- 3 課題の追究
作業の条件
(材料、時間、流れ)

レシピづくり
献立名、手順、調味料

調理実習
2人で1班とし、15分で調理する
試食
(栄養とバランス)
後片づけ
点検
- 4 課題の共有化・まとめ
作品をデジカメで記録し発表する。(評価、感想記入)

個に応じた具体的な手立て

- 1 短時間で調理計画を立てられるようにする工夫。
(食材選択)
 - ・ 班ごとによくある常備野菜を基本とする食材の設定
 - ・ 選択食材、調味料の提示
 (資料の準備)
 - ・ 図書、掲示物、インターネット等の資料の準備
 - ・ 班ごとに味付けや切り方、調理操作などのカード集の準備
 (ティーム・ティーチングによる指導)
 - ・ 学校栄養士との連携による指導
 (ワークシートなど)
 - ・ 簡潔にレシピが記入できるワークシートの配布
 - ・ 授業の流れを記入したプリント配布
 - ・ 教師や栄養士のアドバイス
- 2 短時間で、調理実習できるようにする工夫。
(食材・用具の準備、提示の工夫)
 - ・ 設置場所の明示
 - ・ 調理作業の約束の確認
 - ・ 道具のセッティング
- 3 共有化のための工夫。
 - ・ デジカメによる作品の記録

評価規準

【知識・理解】

<ワークシート・言葉がけ>

食品の調理上の性質や、基本的な調理方法について理解し、手順や時間を考慮した調理計画の知識を身に付けている。

○基本的な調理方法について理解した調理計画の知識を身に付けている。

→材料の特徴や手順について資料などから確認させる。

▼材料の切り方や調理方法について資料を参考にさせる。

【生活の技能】

<机間指導による観察・言葉がけ>

調理計画をもとに、こだわりの一品を安全や衛生に気を付けて能率的に調理できる。

○調理計画をもとに、こだわりの一品を調理できる。

→能率を考えて、手順よく作業が行えるよう助言する。

▼役割分担を確認させ、次にすることを確認させる。

< 共通テーマ >

「生徒の思いやこだわりを実現させる指導の工夫・改善」

< 研究の視点 >

- 身近な課題を主体的にとらえ生活実践に生かす指導の工夫

テーマに迫るためのねらいと手だて

名人シェフを目指そう！ 2	A (1)	A (2)	A (3)	A (4)	A (5)	A (6)
第 3 学年 選択 10 時間扱い		アイウ		イ		

《ねらい》

現在、食をめぐる環境は、外食・コンビニ食など、お金さえ出せば自分で作らなくても食べたいものをいつでも食べられる状況にある。また、孤食化や欠食化、偏食など食に対するゆがみもみられるようになってきた。そのような中、食事と心と体の健康や、より豊かな人間性の育成については、深いかわりがあることが明確になってきており、食についての意識を高め、総合的に食事の大切さを捉えていこうとする食育の推進が叫ばれている。

技術・家庭科では、正しい知識と技術をもち、主体的に選ぶ力や、自分で食事を整えることのできる力を養わせたい。しかし、それぞれの学習で、基礎・基本を学んでいてもそれを総合的に生かしていくという力に欠けている生徒が多い。調理実習などの場面では、衛生安全上、材料も準備しておくことが多く、作る作業も「次は何するの?」と、友だちや教師に尋ねるばかりで、自ら考えて取り組もうとしない生徒もいる。お膳立ての中で、人に任せ、人に頼りきって主体的に考えようとししない場面が多く見受けられる。その一因として、生徒の生活経験や体験の不足、授業時間の不足等が考えられるのではないだろうか。

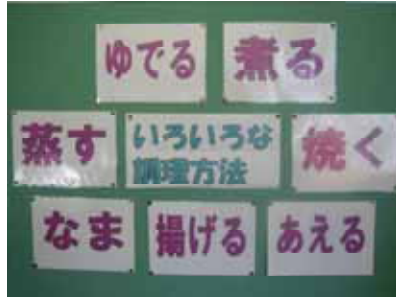
そこで、選択の授業において、多くの調理実習を行い経験を積ませることで、調理の基礎的な知識や基本技術、先を見通した手順、能率的な作業態度などの力が身に付いてくると考える。さらに、身に付いた力は、生徒自身の思いやこだわりを沸き立たせ、意欲的に取り組む姿勢につながるのではないだろうか。

準備されたものを事前の計画通り調理することから、一步レベルアップし、「そこにあるものを使い、何ができるかを考え、できる調理をする」といった、より実生活に近い形で、実践的に調理実習に取り組ませ、食生活を自分の手で創り上げる力を育てていきたい。そして、「自分はこうしたい」というこだわりを抱かせ、その思いやこだわりを、個に応じた学習を充実させることで実現させ、満足感を味わわせたい。さらに、学んだ知識や技術を創意工夫し、自分の生活に生きて働かせることのできる、「生きる力」をぜひ、生徒に身に付けさせたいと考える。

《具体的な手立て》

(1) 思いやこだわりを抱かせるための手立て

- ・ 日常の食生活の一場面を思い浮かばせる導入の工夫
- ・ 豊富な調理実習による経験と技術の向上
- ・ 教室掲示等による、意識付けの工夫。



(2) 思いやこだわりを実現させるための手立て

- ・ 献立作成をするための、資料等の準備
(味付けの秘訣カード・図書・インターネット・参考レシピ)
- ・ 材料や調味料、調理器具の事前準備
- ・ ゲストティーチャーとして学校栄養士との連携



(3) 日常生活の実践につなげるための手立て

- ・ より実生活に近いシチュエーションを想定しての調理実習の計画
* 食材のを選定した意図 → どの家にもあって、なじみのある食材

【基本食材】

- ・ ブロッコリー
- ・ キャベツ
- ・ ジャガイモ

【選択食材】

- ・ ツナ ・ 油揚げ ・ 卵 ・ ベーコン
- ・ ウインナー ・ ハム ・ ホールコーン
- ・ チーズ ・ 牛乳 ・ かに風味かまぼこ

1 題材の目標

- ・日常食に関心をもち、献立作成、調理計画、調理実習を意欲的に行い、日常生活で実践しようとしている。
【生活や技術への関心・意欲・態度】
- ・調理の手順や時間を考慮して、能率のよい作業を工夫している。
【生活を工夫し創造する能力】
- ・調理計画にそって、食品や調理器具を適切に取り扱い、基本的な調理操作ができる。
【生活の技術】
- ・食品の調理上の性質について理解し、基本的な調理方法や調理操作に関する知識を、身に付けている。
【生活や技術についての知識・理解】

2 題材の評価規準

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
・日常食の調理に関心をもち、意欲的に献立作成や調理の計画を立てようとしている。 ・積極的に調理技術を習得しようとしている。 ・献立作成、調理計画、実習を通して、食事についての関心を高め、日常生活で実践しようとしている。	・日常食の課題を見付け、その解決を目指して工夫している。 ・調理の手順や時間を考慮して、能率のよい作業を工夫している。	・調理に必要な材料を適切に選択することができる。 ・調理の計画にそって必要材料、調理器具を適切に扱うことができる。 ・能率よく洗う、切る、加熱するなどの基本的な調理操作ができる。	・食品の調理上の性質や、基本的な調理方法について理解している。 ・調理の基本的な操作の要点について理解している。

3 指導と評価の計画（10時間扱い）

時間	○本時のねらい ・主な学習活動	学習活動における具体的評価規準（評価方法）			
		関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
1	○工夫して献立作成や調理の計画を立て、主体的に基本的な調理操作をし調理できる。	日常よく使われる材料で、献立を立てようとしている。	効率のよい作業手順や時間配分を考え工夫している。（ワークシート・レシピ・作業観察）	食品の調理上の性質を生かし、献立作成と調理計画が立てられる。（ワークシート・レシピ・作業観察）	調理の基本的な調理操作の要点を理解している。（ワークシート・レシピ・作業観察）
2	・一人でできる簡単な調理の献立を作る。	積極的に基本的な調理技術を生かそうとしている。			
3	・短時間で行える調理の計画を立てる。				
4	・食材を生かした、献立作成と調理計画を立てる。				
5	・50分で、簡単な調理をする。	実習した調理を家庭でも実践しようとしている。	食品のそれぞれの特徴を生かした調理を工夫している。（ワークシート・レシピ・作業観察）	手順や時間配分をよく考えて、計画通りの能率よく実習している（ワークシート・レシピ・作業観察）	適切に材料や器具を扱い方を理解している。（ワークシート・レシピ・作業観察）
6					
7	・自分で立てた献立と調理計画をもとに調理実習する。				
8	・50分の中で、食材に応じた献立作成、調理計画、調理実習をする。				
9					
10					

4 本時の学習指導（本時 9 / 10 時間）

（１）本時の目標

- ・食品の調理上の性質や、基本的な調理操作の要点を理解している。【知識・理解】
- ・作ったレシピをもとに、手順や時間配分を考え、計画通り調理実習することができる。【生活の技能】

（２）展開（修正前）

学習内容	学習活動	時間	教師のはたらきかけ → はたらきかけの意図	評価と指導の工夫 【】評価の観点 評価方法 ○ 評価規準(おおむね満足) ▼ 努力を要する生徒の指導の手立て
状況設定	「こんな時何作る？」か、考える。	3	日常の食生活でのある一場面を想定させ、「こんな時何を作る？」か、考えさせる。 → 実生活での状況を想起させ、本日の学習課題にせまる。	
学習課題の設定	学習課題 今ある材料を工夫し、こだわりの一品を作ってみよう！			
材料の提示	一品づくりの条件を知る。 ・基本材料、選択材料 ・レシピづくり ・時間、流れ など	2	使用できる材料を示し、授業の流れ等実習の条件を確認する。 → 材料を提示し、授業への興味・関心を高める。 → レシピづくりや実習が、スムーズに行えるようにポイントを押さえさせる。	
	手立て レシピづくりのための資料や情報を提示し、課題解決に向けて意欲を高める。			
レシピ作り	ヒント資料を参考にレシピを作る。 ・メニュー名 ・手順の確認 ・材料の選択	15	資料・本・インターネットなどの情報提示や、ゲストティーチャー（学校栄養士）によるアドバイスをを行い、レシピを考えるようにする。 → 与えられた基本材料や選択材料から作りたいこだわりのレシピを考えさせる。 → 自分のこだわりを実現させるためのヒントとさせる。 → 調理に必要な手順や時間を考えて計画を立てさせる。	【知識・理解】 ワークシート・言葉がけ 食品の調理上の性質や、基本的な調理方法について理解し、手順や時間を考慮した調理計画の知識を身に付けている。 ○ 基本的な調理方法について理解した調理計画の知識を身に付けている。 → 材料の特徴や手順について資料などから確認させる。 ▼ 材料の切り方や調理方法について、資料を参考にさせる。
レシピとの手順の確認	レシピをチェックしてもらい、メニューをを掲示する。 ・チェック、掲示できたグループから調理を始める。		学校栄養士と共にレシピをチェックし、手順を提示させる。 → TTによるアドバイスで、能率的な作業を確実に行わせる。 → それぞれのメニューを知り、意欲を高めさせる。 → 高まった意欲を、すぐ実行に移させる。	
	手立て 作業の取組について、支援し、賞賛をする。			

こだわりの一品作り	協力しながらこだわりの一品作りに取り組む ・準備 (椅子片付け・手洗い) ・1テーブル2グループ (2～3人×2グループ) ・道具、コンロ等の共有 ・能率的で安全な作業	25	道具、身じたくを確認する。 →能率、安全、衛生に留意させる。 手順、進み具合などを支援する。 →それぞれのこだわりを、実現させる。	【生活の技能】 机間指導による観察・言葉がけ) 調理計画をもとに、こだわりの一品を安全や衛生に気を付けて能率的に調理できる。 ○調理計画をもとに、こだわりの一品を調理できる。 →能率を考えて、手順よく作業が行えるよう助言する。 ▼役割分担を確認させ、次にすることを確認させる。
記録	写真を撮り記録する。 ・デジカメ		デジカメで記録させる。 →成果発表の資料とさせる。	
試食	試食する。		試食させる。 →自ら作ったという満足感を味わわせ、日常生活への実践意欲につなげる。	
手立て 友達の作品について知り、食生活への関心を高め、生活の実践につなげる。				
発表	発表をし共有化する。 ・こだわり ・感想		作品記録を提示し発表する。 →こだわりが実現できたか確認させ共有化させる。また、調理することの喜びを味わい、自ら調理することによって、食生活に対する関心を高めさせる。	
後片付け・点検	ごちそうさまをし、後片付けをする。 点検してもらう。 ・ゴミ ・道具 ・流し、コンロ	5	後片付けさせ、点検をする。 →安全と衛生に留意した調理ができるようにさせ、日常生活における実践につなげさせる。	
自己評価	ワークシートに自己評価する。		自己評価をし、まとめをする。 →本時の学習の振り返りをさせる。	

4 本時の学習指導（本時 9 / 10 時間）

（１）本時の目標

- ・食品の調理上の性質や、基本的な調理操作の要点を理解している。【知識・理解】
- ・作ったレシピをもとに、手順や時間配分を考え、計画通り調理実習することができる。【生活の技能】

（２）展開（修正）

学習内容	学習活動	時間	教師のはたらきかけ → はたらきかけの意図	評価と指導の工夫 【】評価の観点 評価方法 ○ 評価規準(おおむね満足) ▼ 努力を要する生徒の指導の手だて
状況設定	「こんな時何作る？」か、考える。	3	日常の食生活でのある一場面を想定させ、「こんな時何を作る？」か、考えさせる。 → 実生活での状況を想起させ、本日の学習課題にせまる。	
学習課題の設定	学習課題 今ある材料を工夫し、こだわりの一品を作ってみよう！			
材料の提示	一品づくりの条件を知る。 ・基本材料、選択材料 ・レシピづくり ・時間、流れ など	2	使用できる材料を示し、授業の流れなどを実習の条件を確認する。 → 材料を提示し、授業への興味・関心を高める。 → レシピづくりや実習が、スムーズに行えるようにポイントを押さえさせる。	
	手立て レシピづくりのための資料や情報を提示し、課題解決に向けて意欲を高める。			
レシピ作り	ヒント資料を参考にレシピを作る。 ・メニュー名 ・手順の確認 ・材料の選択	15	資料・本・インターネットなどの情報提示や、ゲストティーチャー（学校栄養士）によるアドバイスをを行い、レシピを考えるようにする。 → 与えられた基本材料や選択材料からつくりたいこだわりのレシピを考えさせる。 → 自分のこだわりを実現させるためのヒントとさせる。 → 調理に必要な手順や時間を考えて計画を立てさせる。	【知識・理解】 ワークシート・言葉がけ 食品の調理上の性質や、基本的な調理方法について理解し、手順や時間を考慮した調理計画の知識を身に付けている。 ○ 基本的な調理方法について理解した調理計画の知識を身に付けている。 → 材料の特徴や手順について資料などから確認させる。 ▼ 材料の切り方や調理方法について、資料を参考にさせる。
レシピや手順の確認	レシピをチェックしてもらい、メニューを掲示する。 ・チェック、掲示できた班から調理を始める。		学校栄養士と共にレシピをチェックし、手順を提示させる。 → TTによるアドバイスで、能率的な作業を確実にこなせる。 → それぞれのメニューを知り、意欲を高めさせる。 → 高まった意欲を、すぐ実行に移させる。	
	手立て 作業の取組について、支援し、賞賛をする。			

こだわりの一品作り	協力しながらこだわりの一品作りに取り組む。 ・準備 (椅子片づけ・手洗い) ・1テーブル2グループ (2～3人×2グループ) ・道具、コンロ等の共有 ・能率的で安全な作業	25	道具、身じたくを確認する。 →能率、安全、衛生に留意させる。 手順、進み具合などを支援する。 →それぞれのこだわりを実現させる。	【生活の技能】 机間指導による観察・言葉がけ) 調理計画をもとに、こだわりの一品を安全や衛生に気を付けて能率的に調理できる。 ○調理計画をもとに、こだわりの一品を調理できる →能率を考えて、手順よく作業が行えるよう助言する。 ▼役割分担を確認させ、次にすることを確認させる。
記録	写真を撮り記録する。 ・デジカメ		デジカメで記録させる。 →成果発表の資料とさせる。	
試食	試食する		試食させる。 →自ら作ったという満足感を味わわせ、日常生活への実践意欲につなげる。	
後片付け・点検	ごちそうさまをし、後片付けをする。 点検してもらう。 ・ゴミ ・道具 ・流し、コンロ		後片付けさせ、点検をする。 →安全と衛生に留意した調理ができるようにさせ、日常生活における実践につなげさせる。	
手立て 友達の作品について知り、食生活への関心を高め、生活の実践につなげる。				
発表	記録した作品の映像を投影しながら発表をし、共有化する。 ・献立名 ・こだわり ・感想		作品記録を提示し発表する。 →こだわりが実現できたか確認させ共有化させる。また、調理することの喜びを味わい、自ら調理することによって、食生活に対する関心を高めさせる。	
自己評価	ワークシートに自己評価する。	5	自己評価をし、まとめをする →本時の学習の振り返りをさせる。	

* 修正指導案での修正部分は、斜体文字の部分である。

授業時間内に、発表をしてしまいたいという理由からから、修正前は、試食のすぐ後に発表をし、後片付け・点検を後にしていたが、やはり、後片付け・点検まで入れて調理実習という考えから、発表を最後にし、後片付けの様子も含めた最後のまとめとしていきたい。

5 成果

(1) 食生活に関心をもたせ、思いやこだわりを抱かせるために、日常の食生活により近い状況を設定することが必要と考えた。

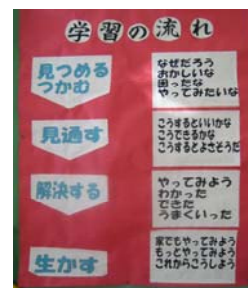
- ・ 日常の食生活の一場面を思い浮かばせるための導入の工夫として、 ロールプレイングを取り入れた。場面は、生徒が帰宅してお腹がすいた時を想定し、模型の冷蔵庫を開けながら、何か作ろうとする気持ちを表していった。「そんな場面ある」と想起させることで、次のレシピの作成において、メニュー決めへのきっかけ作りになっていった。



(模型の冷蔵庫)

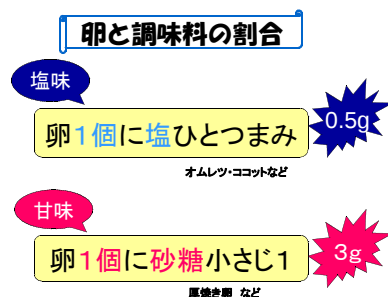
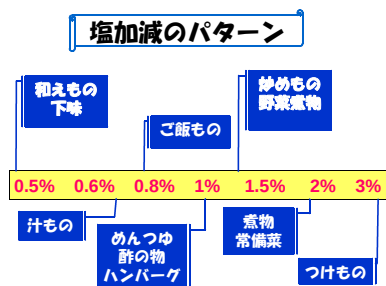
せりふ	動き
・ ただいま ・ お腹すいたなー ・ 何かないかな ・ キャベツがあるな ・ 何か作ってみようかな！	冷蔵庫を開けて、キャベツを取り出す。

- ・ 選択の授業は、週に1時間であるが、なるべく実習の機会を多くした。50分の中で、〈説明・調理・試食・後片付け〉という授業の形を取っていった。献立作成や調理計画の時間は取れないので、ここでは、調理操作や調理技術を向上させるための時間としていった。はじめは、時間に追われていた生徒も、限られた時間の中で、どのような手順で取り組めば能率的なのか工夫し、実行できるようになっていった。例えば、材料や道具の準備では、グループの中での分担ができていないこと。調理と同時に道具の後片付けができ、試食時には、洗い物もほぼ終わっていること。など自然の流れの中で調理や後片付けの手際が向上していった。さらに、「先生次は何作るの?」という質問を受ける機会が多くなり、取組への意欲も高まっていった。
- ・ 調理実習の基盤になる知識や意欲を高める掲示の工夫に取り組んだ。生徒は、授業の中だけでなく、休み時間にも掲示物に目を通すことが多くなり、興味を示した。また、作業の中でも忘れてしまった知識を、掲示物を見ることで繰り返し確認でき、基礎・基本の定着につながっていった。



(2) 作りたいという、思いやこだわりを実現させ、満足感を味わわせるためには、意欲だけではよりよい結果は得られない。今おかれている状況や条件をしっかりと把握し、自分の調理技術や、材料や道具・時間なども考慮しながら、臨機応変に対応していく力が、日常の食事作りには必要になっていく。

- ・まず、献立を作成するための資料を準備することで、情報を選び、組み合わせたりアレンジし自分の思いやこだわりに近い工夫をすることができた。特に、味付けは、作ったもののでき具合を左右する重要な部分なので、塩分や糖分の割合や、調味料を入れるタイミングなどを知る『味付けの秘訣カード』の資料は有効であった。掲示物としてだけではなく、各班ごとに用意することで、作業も能率的に進んだ。



また、インターネットでの情報は、生徒には、検索しやすく親しみやすいとする生徒が以前に比べて多くなった。調理室では、1台のコンピュータを準備してあるが、数台あるとさらによいと思われる。

資料や、インターネットで得た情報を、自分のレシピとしてまとめていくためのワークシートも必要になる。これからの作業が明確に分かるように、そして、記入の時間を極力少なくするため、ポイントを押さえられるようなワークシートの工夫をした。生徒は、材料と作る手順、時間を箇条書きで記入しており、時間の短縮ができた。はじめは、記入していると作る時間が少なくなるので、不安なところではあったが、かえって、作業が明確になり、手際よく作業が進んだ要因になった。



- ・学校栄養士とのティーム・ティーチングは、具体的な手順を考える際、資料では読み取れない細かな部分を、チェックし、生徒に伝えることができよりよい指導となった。調理作業でも一人の教師で指導する時よりも、ゆとりをもって指導に当たることができた。



また、作業の見通しをもたせるために、『本時の活動の流れ』のプリントを配布した。授業の流れを示したことで、自主的に活動できるようになった。

- (3) 日常生活の実践につなげるために、より実生活に近い条件設定をした。特に、基本材料の設定では、調理時間の制限や、調理のしやすさ、何といてもどこの家庭にもあって、なじみのある食材ということが重要である。生徒は、基本材料のいずれか1つを班ごとに選び、その基本材料（主に野菜）をメインに、選択材料（主にタンパク質の食材）数種類と、調味料の組み合わせで、簡単にできる調理をすることになる。はじめは、5種類ほどの食材を基本食材としたが、生徒の意欲が高かった食材3種類に修正指導案では変更した。なじみの食材を用意したことで、献立作成の際のイメージもしやすくなった。

基本食材	選択食材	調味料
・ブロッコリー ・キャベツ ・ジャガイモ *この中から1つ	・ツナ ・油揚げ ・卵 ・ベーコン ・ハム ・ウインナー ・ゴマ ・ちくわ ・ホールコーン ・チーズ ・牛乳 ・かにかま *この中から1～2種類	・塩 ・ソース・ケチャップ・マヨネーズ ・酢・ゆずポン酢・みりん・調理酒 ・コショウ・砂糖・しょうゆ・サラダ油 ・みそ・めんつゆ・わさび・からし ・おろしニンニク・おろししょうが ・コンソメ・インスタントだし・ごま油 ・オリーブオイル・とうがらし・小麦粉 ・片栗粉

その他、用具や調味料を整えておくことで、使用する時も無駄な時間や労力を使わずにすむ。また、管理の面からも、整理しやすく便利である。



<生徒の感想から>

梅ドレッシングがブロッコリーとよくあっておいしかった。結構簡単だったので、次回はもう少し難しいものに挑戦してみたい。

簡単で、とてもかわいいのができました。チーズがとろけるところまでいくことはできなかったけど、とてもおいしかったです。また家でもトライしたいです。

なかなかあり合わせのもので作ったりしないので、今回の授業は新鮮でよかった。また機会があったらやりたいと思いました。おいしくできてよかったです。

とってもおいしくできた。素晴らしいと思った。本当によくできたと思う。家でもやってみようと思う。でも、短時間で工夫するのは大変なことだなと思った。

ポテトサラダがとてもおいしく作れました。彩りもきれいで見た目もよかったかなと思います。家でも作ってみようと思います。

そんなにうまくできなかったけど、手順を覚えたので、家で作ろうと思います。

生徒の作った『こだわりの一品』



6 今後の課題

- ・生徒にゆとりをもたせて、レシピを考えさせ、調理し、後片付けまでを取り組ませるには、2時間扱いの方がよいと考える。
- ・1時間扱いの場合は、アレンジしやすい材料や扱いやすい材料を使用するなどの工夫をするとうい。
- ・調理用具の工夫で、時間の短縮や、調理の種類も増えると考える。
- ・生徒の調理への意欲はかなり高まったので、教師も、簡単に、しかも、生徒が調理の技術を学べるメニューをさらに考え、生徒の意欲に応えなければならないと感じた。
- ・最終的な目的の一つは、「生活に生かす実践的な態度を養うこと」である。日常の食生活で、少しでも生徒の「作ってみたい、やってみたい」という意欲と技術をさらに高め、実践できる能力を身に付けさせる工夫をしていかなければならない。
- ・今後も、常に基礎・基本を押さえながら、生徒のさらなる技術の向上に努めていきたい。

本日の活動の流れ

○ 学習課題

今ある材料を工夫し、こだわりの一品をつくってみよう！

時間

1 : 4 5

基本材料の確認

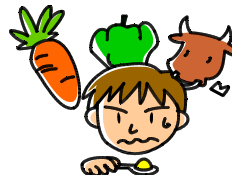
- ・自分達の基本材料から何ができそうか考える

選択材料を選ぶ

- ・選択材料の中から1～2品選ぶ

メニュー決定

- ・15分程度でできる簡単なものを考える



1 5
分間

レシピづくり

- ・調味料
- ・分量
- ・手順
- ・時間と流れ

プリントに記入



作るもの（メニュー）を掲示発表する

- ・献立名を画用紙に記入し掲示すホワイトボードに貼る

先生にチェックしてもらったらすぐ調理に取りかかる

2 : 0 0

調理実習

- ・身支度を整える
- ・椅子を片付ける
- ・手を洗う
- ・道具を準備する



- ・材料を切る
- ・調味料の計量
- ・調理

1 5 分間

- ・盛り付け



1 5
分間

できあがったらデジカメで記録してもらおう

2 : 1 5

試食

- ・グループごとに先生に一声かけて試食する

2 : 2 0

5
分間

感想発表

- ・メニューと簡単な感想発表

5
分間

2 : 2 5

後片付け

- ・グループごとに後片付けをする

5
分間

点検

- ・先生に点検してもらおう

2 : 3 0

自己評価

工夫
能率
安全



調理の計画を立てよう



1 献 立 名

2 メインになる食材
(基本食材)

3 レシピを考えよう



材 料 (基本材料・選択材料・調味料)

手 順
時間



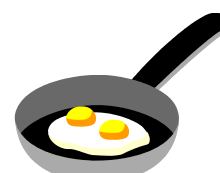
○メニュー掲示 ○いす片付け ○身じたく整え ○手洗い

0

5

10

15



グループ№

氏名

.

.

調理の計画を立てよう

- 調理の計画を、指示に従い立ててみよう。
実際につくることを前提に、考えて工夫をしてください。

選択家庭科

調理の計画を立てよう

1 メインになる食材

2 献立名

3 レシピを考えよう

材 料

手 順

時間

0

10

20

30

40

3年 組 氏名

3年 組 氏名

指定された食材がメインになるように献立を考える

材料は、メインの食材以外に、2品くらい加えてよい

調味料は、何品でもよい

調理する時間は、
20分
程度とする

後片付けの時間も入れて、40分とする

条件

- ・2人組でつくる。
- ・正味20分の時間でできるものとする。
- ・実際に、選択の時間にできるものとする。
- ・メインになる材料の他に2品くらい加えてもよいが、あくまでもメインの食材が生かされるように考える。
- ・調味料は
塩・砂糖・酢・コショウ・油・バター・ケチャップ・ソース・しょうゆ・みりん・酒・みそ など
- ・調理方法は
煮る・焼く・揚げる・炒める・蒸す・生 など

工夫をしてみよう！

塩加減のパターン

和えもの
下味

炒めもの
野菜煮物

ご飯もの

0.5%

0.6%

0.8%

1%

1.5%

2%

3%

汁もの

めんつゆ
酢の物
ハンバーグ

煮物
常備菜

つけもの

塩分濃度の計算方法

$$\text{塩の重さ} = \frac{\text{材料の重さ (g)} \times \text{塩分 (\%)}}{100}$$

(例) かきたま汁

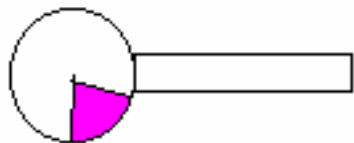
塩分はだし150ccに対して0.6%

(式)

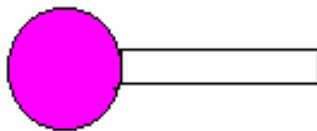
$$\frac{150 \times 0.6}{100} = 0.9g \quad \text{約 } 1g$$

どれも塩分は 1 g

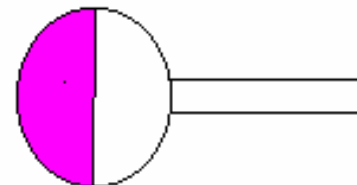
塩



しょうゆ



みそ



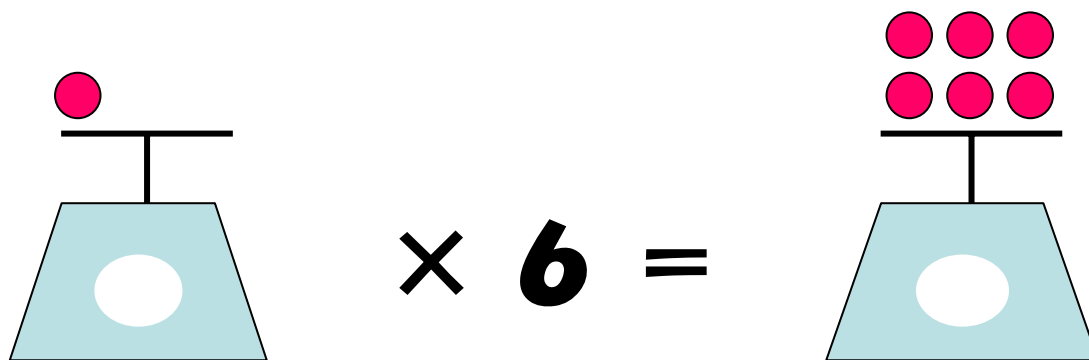
小さじ 1 / 5

小さじ 1

大さじ 1 / 2 強

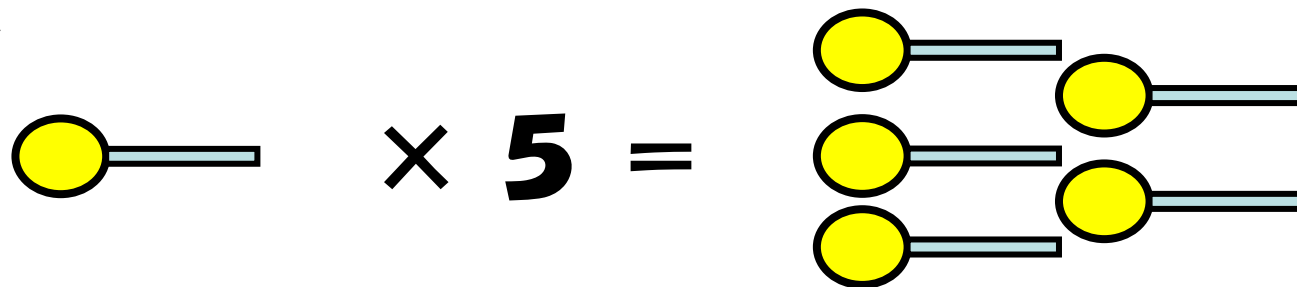
塩をしょうゆにおきかえる時

重さ



塩をしょうゆにおきかえると**重さ**は**塩の6倍**

かさ



塩をしょうゆにおきかえると**かさ**は**塩の5倍**

煮ものの法則

塩分

材料の重さの **1. 5 %**

砂糖

材料の重さの **2 %**

みりん

砂糖と同じかさ

だし

材料の重さの **1 / 2 量**

煮ものの味付け割合

しょうゆ	砂糖	料理
1	1	甘辛いもの
1	2／3	照り焼きのたれ
1	1／2	甘めの煮もの
1	1／3～1／4	普通の煮もの
1	1／5	薄味の煮もの

卵と調味料の割合

塩味

卵1個に塩ひとつまみ

0.5g

オムレツ・ココットなど

甘味

卵1個に砂糖小さじ1

3g

厚焼き卵 など

和えものの法則

塩分

材料の重さの **1. 5%**

だし

しょうゆと同じ

酢のものの法則

塩分

材料の重さの 1 %

酢

材料の重さの 10 %

砂糖

材料の重さの 3 %

だし

酢と同じかさ

塩分換算表早見表

塩分	0.5	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5
塩	ひとつまみ	小さじ 1/5	小さじ 1/5強	小さじ 2/5	小さじ 1/2強	小さじ 3/5	小さじ 3/5強	小さじ 4/5	小さじ 1弱	小さじ 1
		1g	1.5g	2g	2.5g	3g	3.5g	4g	4.5g	5g
しょうゆ	小さじ 1/2強	小さじ 1	大さじ 1/2	大さじ 2/3	大さじ 2/3強	大さじ1	大さじ 1強	大さじ1 +1/3	大さじ1 +1/2	大さじ1 +2/3
	3g	6g	9g	12g	15g	18g	21g	24g	27g	30g
みそ	小さじ 1弱	大さじ 1/2強	大さじ 2/3強	大さじ 1強	大さじ1 +1/3	大さじ1 +2/3	大さじ 2弱	大さじ2 小さじ 2/3	大さじ2 +1/2	大さじ2 +2/3
	5g	10g	15g	20g	25g	30g	35g	40g	45g	50g

基本のドレッシング

酢 : 油
1 : 3

+

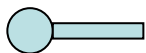
塩・砂糖・こしょう

例えば2人分

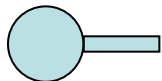
酢 = 大さじ 2
油 = 大さじ 6
塩 = 小さじ 3 / 5
こしょう = 少々

調味料のかさと重さの表

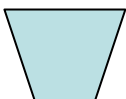
小さじ
5 c c



大さじ
15 c c



計量カップ
200 c c



	小さじ	大さじ	計量カップ
水	5g	15g	200g
酒	5g	15g	200g
酢	5g	15g	200g
塩	5g	15g	180g
しょうゆ	6g	18g	230g
みそ	6g	18g	230g
みりん	6g	18g	230g
砂糖	3g	9g	130g
片栗粉	3g	9g	130g
小麦粉	3g	9g	110g
バター	4g	12g	180g
サラダ油	4g	12g	180g

調理の方法

煮る

- ・スープ
- ・汁もの
- ・野菜の煮物
- ・筑前煮
- ・煮付け
- ・肉じゃが

など

焼く

- ・焼き肉
- ・焼き魚
- ・卵焼き
- ・目玉焼き
- ・オムレツ
- ・ムニエル

など

炒める

- ・野菜炒め
- ・チャーハン
- ・麻婆豆腐
- ・きんぴら
- ・筑前煮
- ・肉じゃが

など

蒸す

- ・カップケーキ
- ・茶碗蒸し
- ・プリン
- ・じゃがバター

など

あえる

- ・おひたし
- ・酢の物
- ・ごま和え
- ・サラダ
- ・白和え
- ・肉じゃが

など

揚げる

- ・天ぷら
- ・から揚げ

など

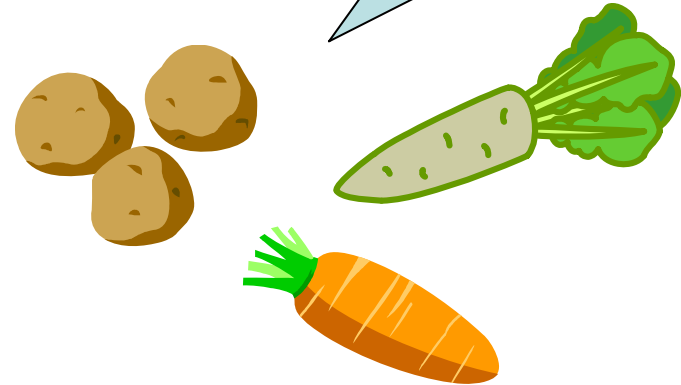
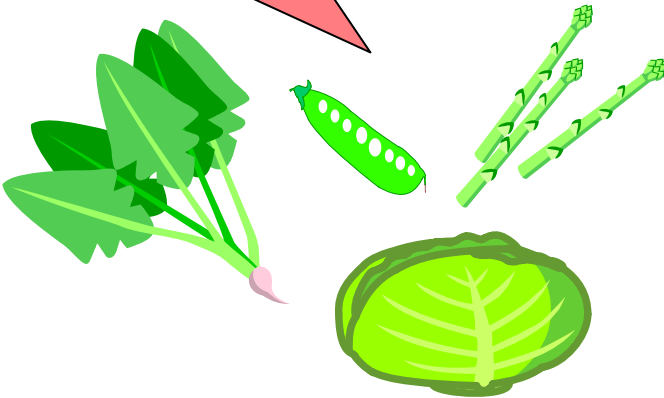
野菜のゆで方

お湯から

水から

土より上

土の中



水にさらす

そのまま

アクの多いもの

アクの少ないもの